

2004年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

第1008号

講義計画

東京大学

「演習 I」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	一ノ瀬 篤	時事経済問題解説	102
02	伊代田 光彦	経済学入門	102
03	上野 勝男	IT革命について考える	103
04	梅本 哲世	経済学入門	103
05	桂 昭政	これからの経済社会について考える ー競争社会を越えてー	104
06	熊谷 次郎	経済(学) いろいろ探索の旅	104
07	巖 善平	経済学入門	105
08	佐賀 朝	現代社会の諸問題	105
09	芝村 篤樹	社会を科学する方法	106
10	滝田 和夫	経済学の巨匠達に学ぶ	106
11	中野 端彦	経済と社会のことを考えよう	107
12	中村 勝之	大学の「出口」について考える	107
13	西川 憲二	経済学って何	108
14	辻 洋一郎	経済事例を通して考える	108
15	藤田 香	経済学部入門	109
16	前田 治郎	新聞記事を読む	109
17	望月 和彦	「世の中は左様しからばごもっともそうぞござるか しかと存ぜぬ」をブッとばす!	110
18	矢根 眞二	自分流の学習スタイルを創る	110
19	辻 洋一郎	経済事例を通して考える	108

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I (時事経済問題解説)	01	通 期	4 単位	一ノ瀬 篤
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>不良債権、倒産、構造改革、極端な金融緩和政策の継続、日本の貿易競争力弱化の兆し、国債の累増、等々、我々を取り巻いている現実の経済は激動の時代を迎えている。この演習では、深い考察ではなく、上記のような諸問題についての概略的な知識もしくは理解のための基礎知識を身につけることを目標とする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>はじめは担当者が short lecture の形で、いくつかの話題について解説する。回が進んでくると、新聞・雑誌記事を対象として、受講生に報告・説明を求めたり、不明点を提示してもらったりする形をとりたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験を含め、数回の小テストを行う。この結果と日頃の発表や発言を総合的に勘案して最終評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本経済新聞社編『Q&A 日本経済100の常識』(日本経済新聞社、最新版) *この参考書は how to もの的な外観になっているが、経済学部生としては必携である。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I 経済学入門	02	通 期	4 単位	伊代田 光彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習は、これから経済学を学習するに当たって必要な次の3点について行う。 第1に、経済学学習に欠かすことのできない心構えについて学ぶ。経済学という学問の性格を正しく認識することが学習の出発点である。経済学の特徴を正しく把握すれば、学習に当たって必要な心構えが得られる。第2に、コンピューターは現代社会では必須とみなされるが、これに対する心理的障壁を取り除き、その基本的操作・利用に慣れることを目的とする。コンピューターの操作・利用は誰もが容易にできかつ便利なものであることがわかる。第3に、担当者の専門分野であるマクロ経済学の骨格を学習することを目標とする。所得、雇用、物価水準などが、どのような意味をもつものであり、どのようにして決まるかについて学ぶ。 これらを学ぶことを通じて、「経済学がわれわれの日常生活と密接に関連するだけでなく、それ自体魅力に富む学問分野である」ことに気づくことを期待したい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>春学期 1 経済学はどういう学問か。 2 コンピューター実習(ワープロ、表計算、グラフ、パワーポイント、データベース等について各自の到達度を見ながらゆっくり進める)。</p> <p>秋学期 1 テキストについて学習する。報告者のグループを決めて学習を進めていくが、各自が自ら読んで学習しなければ、この演習の目的は達成されない。 2 必要な場合はコンピューター実習を継続する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(出席、発表)およびレポートにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>サムエルソン(著)『経済学(第13版上)』(岩波書店、1992年)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	03	通期	4単位	上野 勝男
<p>[演習概要・学習目標] つい昨日までは、「IT革命の波に乗り遅れたら大変なことになる！」などとこそ「猫も杓子も」IT、ITと絶叫していたものでした。それが、いまではあのバラ色の未来像はどこかに消えたのか、「IT不況」とさえ呼ばれています。「IT革命」はたんなる流行でしかなかったのでしょうか。ITとは、情報技術という英語の略称です。本来、情報技術は、私たちの生活、コミュニケーションにとって大切な手段です。それが、私たちにとって便利で使いやすくなるのであれば、社会的進歩といえるものはずです。しかし、たんに経済的利益追求の手段にさせられたり、危険な政治的・軍事的目的にねじ曲げられて利用されたりすれば、深刻な問題を引き起こすことにもなります。騒々しい「IT革命」の連呼が消えはじめた今こそ、あわてず、じっくりと、たんに目先の視点からだけでなく、人類史的観点にも立って、この問題を考えてみませんか。 以上のような問題を、テキストをじっくりと読みながら、みんなでさまざまな角度から検討し議論しようという「演習」形式によって考えていきます。演習は初めてでしょうから、最初は「やり方」を確実に身につけることができるようにゆっくりとすすめます。また、このなかで、大学での学び方・学生生活一般についてもアドバイスをするつもりです。</p>	<p>[演習計画] 演習の開始時に説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法] 演習はいっしょに討論し考えることが何よりも大切です。だから、出席しないことには何も始まらないのです。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 長田好弘(著)『「IT」革命を考える』(新日本新書 508)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	04	通期	4単位	梅本 哲世
<p>[演習概要・学習目標] 経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象にたいする生き生きとした関心である。今、日本と世界でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。 この演習では以上のような趣旨を踏まえて、現在の日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。春学期は、家計、消費者問題、情報化、廃棄物問題などについて、テキストにそって学習する。秋学期は、日本経済の発展の歴史、多国籍企業、租税と財政などについて学習するなかで、今後の日本経済について考えていきたい。 この演習の目標は、いま新聞やテレビで報道されている経済問題について一応の理解ができる程度の基礎知識の習得である。授業は基本的にテキストを輪読する形で行うが、適時ビデオ教材も使用して具体的なイメージで経済を考えることができるようにしたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家計、賃金、労働 2. 大競争時代の流通と消費者問題 3. 成熟社会のもとの高齢者問題 4. 食品環境と食料危機 5. 廃棄物とリサイクル 6. コンピュータと社会生活 7. 新しい時代の到来と自動車 8. エネルギー問題と地球環境危機 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義社会成立史 2. 高度成長から「経済大国」へ 3. 世界経済から地球経済へ 4. 現代世界経済のしくみ 5. 租税と国家財政 6. 地方分権と地方財政 			
<p>[成績評価の方法] 出席を重視し、演習での態度(報告・発言など)およびレポートなどにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 演習中に適時指示する。</p>			
<p>[教科書] 佐々木佳代編著『地球時代の経済学』(ミネルヴァ書房)</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習Ⅰ	05	通期	4単位	桂 昭政
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>日本の経済社会は90年頃をターニングポイントとして大きく変貌してきている。比較的平等な社会から優勝劣敗、あるいは弱肉強食の社会へと変化してきている。演習では変化した日本経済の現状、および将来の望ましい経済社会像についてテキストをもとに報告、討論を行い、各自の日本経済社会についての認識を深めていくことを目標とする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>演習は以下の内容を中心に進めていく。 一. テキストの報告、討論 二. パソコンによる文章作成、表計算、グラフの作成等の実習</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、討論、レポート等をベースにして評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>暉峻淑子『豊かさの条件』(岩波新書)</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習Ⅰ	06	通期	4単位	熊谷次郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>目標は、現代の経済について学びながら、勉学の基礎となる知的訓練、知的好奇心を喚起することにある。具体的には、次のことを目指す。 (1) 経済と経済学の基礎的知識を身につけること。これは、経済と経済学の世界で通用する基礎文法を身につけること、と言い換えてもよい。 (2) 教科書を読んで（ここでは教科書だが、一般的に言えば、与えられたドキュメント・文書類、といってよい）、その内容を文章で簡潔にまとめ、あるいは口頭で発表する力をつけること。 (3) 経済学の分野は広く深いので、そのなかで自分は何を専門とするかについての方向性を得ること。 以上の目的を達成するための一つの手掛かりとして、下記の教科書を中心に勉強していく。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>まず教科書の内容を正確に捉えることから始める。そのため、教科書の輪読をしたり、教科書に則した報告を順番にってもらうことになる。その上で、みんなで質疑や討議を行って、理解を深めるとともに、自ら考え、それを表現する力を養っていきたいと考えている。たぶん20～25名の演習だろうから、緊張せずに、自由に発言し、出席した以上は何かを学び、何かをしゃべるようにしてほしい 教科書で扱われているテーマは以下の通り。「経済学とは」、「市場」、「豊かさ」、「外国との取引」、「お金について」、「国の台所」、「社会と経済」、「経済学の過去・現在・未来」。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、レポート、そして期末に実施を予定しているペーパー・テストなどの総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>日本経済新聞社編『やさしい経済学』, 日本経済新聞社, 2001年(日経ビジネス人文庫のなかの1冊なので700円程度)。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ (経済学入門)	07	通 期	4単位	巖 善平
[演習概要・学習目標] 経済学とはどういう学問か。経済学部志望の受験生に聞くと、「モノやカネの動きを説明するもの」との答えが多かった。もちろん、経済学の内容は非常に豊富で、その扱う領域も遥かに幅広い。 この基礎演習の目的は、新聞やテレビでよく取り上げられる様々な経済問題を理解するための最小必要限の基礎知識を習得することである。また、必要に応じて、時事経済問題について新聞などを予め調べて貰い、グループ別の討論会・弁論会を学生の司会で行う予定である。	[演習計画] ① 最初の数週間、ワープロによるレジユメの作成、図書館の利用方法、図書資料やネット情報の検索・収集の方法などについて説明する。 ② 日経新聞の経済記事などを読むための経済学、統計学の基礎知識について解説する。具体的に、経済成長率や失業率、物価上昇率のような専門用語の内容と計算方法を教える。 ③ 教科書を輪読して、授業で発表する。その上で、基礎概念などを解説し、現実の経済問題との関連で議論する。			
[成績評価の方法] 必修科目であるため、出席状況にも配点する。 具体的には、出席3割+発表の準備3割+テスト4割とする。	[参考文献] 随時配布する。			
[教科書] 選定中。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ	08	通 期	4単位	佐賀 朝
[演習概要・学習目標] この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。 まず①論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること、次に、②特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに③そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で④他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。 書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大事な作業である。 1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。	[演習計画] (前期) ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、担当者を決めてその要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材に全員で討論を行う。 場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。 以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。 (後期) 基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。 *なお、取り上げるテーマとしては、戦争と平和、環境問題、教育問題、福祉問題から、地域社会や都市の問題、大学改革の問題などなど、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。			
[成績評価の方法] 出席・受講態度、報告、討論、レポートなどを総合的に評価。	[参考文献] 授業の中で随時、提示する。			
[教科書] 特に定めず、随時、プリントなどを配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I (社会を科学する方法)	09	通 期	4単位	芝村篤樹
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>大学での勉強とはなんだろうか。高校までの勉強とどう違うのか。まずここから考えてみたい。次いで、みなさんは経済学部を選択して入学した。経済学のように、社会を相手に科学するとはどういうことか。</p> <p>演習では、このようなことを念頭において、社会を科学するために基礎的に必要な力が身につくようにしたい。一番の基本となるのは、社会について問題意識をもつこと、書き言葉、話し言葉を受信し発信する能力を身につけることである。現代社会の諸問題を論じた短文を教材に、受講者が報告し議論する、年に何度かレポートを提出し添削を受ける、これがこの演習の大半となる。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>最初の数回のオリエンテーションを経て、教材をもとに報告・議論をおこなう。報告者は必ずレジュメを準備し、それ以外の人は必ず疑問・問題提起を用意し発言する。年に数回レポートを課し、文章作法についても学ぶ。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点およびレポートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じ指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくに無し。必要に応じレジュメ・資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	10	通 期	4単位	滝田和夫
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>現代の経済学は、A. スミス、J. M. ケインズ、K. マルクスなどの経済学の巨匠たちが作り上げた経済理論を基礎に組み立てられている。例えば、本学経済学部必修科目である経済原論はIA-1 (ミクロ経済学)、IA-2 (マクロ経済学)、IBと三つに分かれているが、あえて単純化すれば、これら三つの経済原論はそれぞれ上の三人の経済学が発展したものといえる。この演習では、経済学への入門として、彼ら三人を含む何人かの経済学の巨匠達が、どのような人生をおくり、また自分たちが生きた時代の問題をどのように考え、解決しようとしたのかを学んでいきたい。その際、難解な経済理論そのものよりも、むしろその人物の人生と社会の見方・理想・ヴィジョンなどに焦点を合わせて進みたい。</p> <p>演習では、経済思想のやさしい入門書としてアメリカで長く定評のある下記のテキストを輪読していく。つまり、テキストの分担を決めて、担当者には内容を要約・報告してもらい、それに基づいて討論を行う。このようにして経済学の巨匠たちに慣れ親しむことがこの演習の基本目標であるが、それと同時に、現実の経済に関する感覚を磨くことも大切なので、毎回のゼミの最初20分程度は新聞の興味ある経済記事について、やはり報告者を決めて報告・討論を行いたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>毎回、最初の20~30分間は、経済記事の報告・討論。その後、テキストについて報告・討論。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席とレポート・報告・討論の状況による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて随時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ロバート・L・ハイルブローナー著、八木甫他訳 『入門経済思想史、世俗の思想家たち』筑摩学芸文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 1	通期	4単位	中野 瑞彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>社会と経済は密接に結びついている。身近な事象の一つ取ってみても何らかの形で経済と結びついている。しかしながら、残念なことに、ほとんどの人が経済の仕組みを十分に理解しないまま生活している。一方で、経済はあまりに身近であるために、自分なりに「理解」していると思っている人も少なくない。本当にそうだろうか？</p> <p>この演習では、身近な経済事象を通じて経済学の基礎を勉強する。そのためには、社会的常識と思われる事柄も積極的に学習していかななくてはならない。その意味では、この演習を通じて、経済に絡んだ幅広い分野に注目する意識を養ってほしい。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済記事の報告・討論…経済に関する身近な話題を取り上げて議論する 2. パソコンの演習…経済学を学ぶ上で最低限必要なパソコン・スキルを習得する 3. テキストの輪読…テキストの内容を分担して報告する 1年間で経済学の基礎的な事項を一通り習得することを目標とする 4. 経済データの分析…経済データが物語る事実は発見し分析する 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習への参加積極度、中間試験、各自課題レポート提出による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>別途指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 2	通期	4単位	中村 勝之
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、大学の「出口」、すなわち卒業後の就職や進路といった学生自身が直面する問題について考えて行きたい。あえてスローガンを掲げるとすれば、「東大生に勝つために」である。</p> <p>「東大生に勝てるわけないやん…」と思うかもしれない。だが現時点での勝負は「偏差値」の大小であって、卒業後の人生における勝負はまだついていない。勝負はこれからだし、東大生と勝負する直近の場所、それが卒業後の進路なのである。</p> <p>東大生とて君たちと近い年齢。入学してしばらくは浮かれているに違いない。相手が怠けている今こそ、力を蓄えるチャンスなのである。そのためにも、今から卒業後の進路について真剣に考え、希望就職先について研究していこう。</p> <p>演習という初体験の授業形態で、就職のことについて考えるからといって、堅苦しく考えなくていい。「自分がどうありたいか」これを基準にして、いかに大学4年間で「自分をかわいがってやる」ために今を頑張るか。これのできない者に「光」など見えてこない。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>☆ 春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 図書館ガイダンス II. 桃山の進路動向の実態 III. 儲かっている企業はどこか？ ~企業財務分析入門~ IV. 即戦力となる資格は何か？ <p>☆ 秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> V. 進路希望調査 VI. V. に基づく発表 			
<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①演習時間中に出席をとることはあえてしないが、毎回出席することが前提となる。 ②演習中における発言など、演習参加に対する積極性を重視する。 ③学期ごとに提出してもらうレポートにおける独創性を重視する。 	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習 I	13	通期	4単位	西川 憲二
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学部に入學してどんなことを学ぶのか、経済学って何なのか。どんな役に立つのか。このようなことを考えるために、いろいろなテーマについて説明しながら議論していきたい。そのような中で、話す練習とレポートを書く練習をする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>大学キャンパス生活 ビデオを見てレポートを書いてみよう 新聞記事の読み方 グループ研究</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、発表</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習 I (経済事例を通して考える)	14 19	通期 通期	4単位 4単位	辻 洋一郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>『やりたいこと、なりたいこと』をみつけたり、『なりたい自分』をみつけて、その一歩を踏み出す…。大学で学ぶことがその助けになれば最高です。そのためには自分を知ることがもちろん、自分のまわり(環境)を知り、どうしたら自分の思いが実現するかを構想することが大切です。この演習では、身近な経済活動を教材にして、①自分の考えをまとめること、②自分の意見・考えを表現しまわりに伝える方法を身につけることを目標にしています。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>①はじめの数回は大学の環境になれることを主眼にします。②慣れるにつれ、新聞記事やトピックスを例にして討論形式で演習を進めます。③後半では、自分の考えのまとめ方、自己表現の方法、相手へのうまい伝え方について実際にやってみながら、みんなで考えていきます。 ※演習は、授業とは違って、自分が発表したり、発言することが前提になります。前半、慣れるまでは講義も織り交ぜますが、後半は積極的に参加し発言することが期待されます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、参加姿勢(発言や全体への貢献など)、及びレポートなどを総合して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>都度演習中に推奨、ならびに指示します。 都度、『Q&A日本経済100の常識(2004年版)』(日本経済新聞社)や、『会社はこれからどうなるのか』(岩井克人著、平凡社)などに触れながら進めたいと考えています。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I (経済学部入門)	1 5	通 期	4 単位	藤 田 香
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>テーマ：現実社会と経済学はどんな関係があるか？ この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的枠組みについて学習します。 経済学は、何の役に立つのか？ 経済に関する意味や仕組みを理解するのはしんどいです。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がはっきりしてきます。理解できれば、興味もわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。 この演習を通じて、経済学部での大学生活をうまくすごせるノウハウを身につけましょう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>① 大学生入門 ② 経済学部入門 ③ 経済学入門</p> <p>具体的な講義の進め方については、第一回目の講義の際に、説明する予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席することは前提です。</p> <p>社会常識やマナーを守って行動しない場合(私語、睡眠、携帯(メール)、飲食、遅刻、途中退室、内職、無断欠席等)は除籍します。その上で、演習に対する取り組みの積極性(ただじっと座っているだけでは評価しません)、報告、討論、レポート、テストにより総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>最初の講義で相談の上、決定します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 6	通 期	4 単位	前 田 治 郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題(だからこそ研究に値する)を取り上げ、自分独自の見解を見つけたしたり、レジュメ(概要)を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>1. 資料収集の研修—図書館、インターネット 2. レジュメ作成の練習 3. 各人のテーマ設定 4. 教室での報告と討論(反復) 5. レポートの作成</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ	17	通期	4単位	望月和彦
<p>〔演習概要・学習目標〕 テーマ：「世の中は左様ならば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす！</p> <p>当ゼミは、ディベート専門ゼミです。ディベートとは、ある問題に対して賛成派と反対派に分かれて議論を戦わすゲームです。おそらくみなさんはこれまでディベートなんてしたことないと思います。そのためできるかどうか心配だと思っている人もいでしょう。でも心配ありません。私はこれまで9年間、1回生のゼミでディベートをしてきましたが、みなさん熱心にディベートに取り組んでもらいました。</p> <p>本年度は、「ディベート勝負20番！」を考えています。年間20回のディベートを行うつもりです。ディベート担当者以外は、審判となり、ディベートの採点をするので、その都度勝負がつきます。</p> <p>どのようにディベートするのかについては、テキストを読めばわかりますし、ゼミの最初に説明を行い、ディベートのビデオも見てもらいます。それで十分わかります。ディベートは、自分の意見をどんどん言えるので、おもしろい授業になります。なかには話すのが苦手という人もいますが、ディベートは一人でするのではなく、グループで行うので心配はいりません。</p> <p>ディベートすることにより、社会問題について関心が芽生えてきます。なぜ勉強するのかが分かってきます。自分の判断ができるようになります。このゼミを終えた頃には、世界観が変わった別の自分になっているかも知れません。</p>	<p>〔演習計画〕 参考として、2003年度演習Ⅰのディベートテーマを挙げておきます 第1回 死に方の選択 安楽死 第2回 核兵器廃絶 第3回 学校給食 第4回 北朝鮮問題 第5回 死刑制度 第6回 ひきこもり 第7回 原爆役下 第8回 クローン人間 第9回 日本人は働きすぎか 第10回 有料化でゴミは減るか 第11回 ガン告知 第12回 ゲームは子どもに有害か 第13回 外国人選挙権 第14回 英語の第二公用語化 第15回 自殺は容認されるか 第16回 ゆとり教育 第17回 少年法 第18回 いじめと管理教育</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席、ディベートの成績によって評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 文藝春秋編『日本の論点』シリーズ 文藝春秋社 鷲田小彌太『哲学がわかる事典』 日本実業出版社 鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社 よみうりテレビ編『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社 猪瀬直樹『日本国の研究』 文藝春秋社 浅羽通明『大学で何を学ぶか』 幻冬舎</p>			
<p>〔教科書〕 望月和彦『ディベートのすすめ』 有斐閣選書</p>				

経済
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ	18	通期	4単位	矢根 真二
<p>〔演習概要・学習目標〕 これらからの大学・社会の生活を楽しめるような「自分流の学習スタイルを創る」ことが学習目標です。演習の特徴は、授業を聞いていれば良い講義とは違って、互いの学習力自体を高め合うために積極的に相互の意見を交換し合う点に特徴があります。</p> <p>具体的な学習材料として、個人およびグループ単位で、現代流の「読み書き・聞き話す」という基本的なコミュニケーション能力養成のためのゲームにチャレンジします。「どれほど的確に既存の情報を読み（聞き）取れるか？ いかに分かりやすく話せ（書け）るか？」を自覚することもなく学習の性能に問題があるままだと、社会に出るところから大学での学習も非効率になってしまうからです。もともとコミュニケーション能力の練習機会が不足しているから学習性能が未熟なのですから、1年生の間に関連授業の履修を通じて自分の学習能力自体を高めておくことが非常に大切なのです。</p> <p>単純ですが重要なポイントは、本当の自分の考えをストレートに出しながらコミュニケーション技術を磨くことです。目立ったり失敗したりするのを恐れて他人をまねて無難にふるまっただけでは、本番に通用する「自分流のスタイル」は身につかないからです。他人とは違う自分なりの考え方を相互に交換するからこそ有益な練習機会になるわけですから、何事にも創意工夫してトライする限り失敗は歓迎されるが演習なのです。</p>	<p>〔演習計画〕 今年度は次の3つのプログラムを中心に学習する予定です。 ① パーチャル株式投資ゲーム PC（パソコン）の基本操作の復習を兼ねて、ネット上で仮想的な株式売買を行い、資産運用とその戦略の練り方を競い合います。会社・産業・経済の情報を収集し、自分の意思決定を他人に論理的に説明する習慣を身につけることで、社会への階段に近づくことが目的です。 ② Essay & HP コンテスト 今も昔も、大学の試験でも会社の業務でも、文書作成は基本です。特に今日ではネットを通じた効率的な情報交換が当たり前になっていますから、演習でも参考文献を用いてWORDなどで作ったEssayを自分のHP（ホームページ）にアップしてもらったうえで、互いに批評し合います。ですから、作文が苦手だという人なら論述作文、HPなんて作ったこともない人なら経済情報処理演習などの履修を強く推奨します。 ③ ディベートゲーム 教科書から関心のあるテーマを選び、賛成派・反対派に分かれて討論を競い合うゲームです。いろいろな論理・価値観・考え方を学ぶと共に、相手をうまく説得する技術を高めることが目的です。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 各種プログラムに関する自己評価シートをベースに評価します</p>	<p>〔参考文献〕 ●野口悠紀雄(2002)『「超」文章法』中公新書 780円 文書の書き方だけでなく、内容の練り方もうまく整理したマニュアルです ▶教科書や参考文献関連の詳細情報は教員サイトを参照して下さい http://rio.andrew.ac.jp/yane/lect/guid/sample.htm</p>			
<p>〔教科書〕 ●望月和彦(2003)『ディベート入門』有斐閣 ディベートのテーマ・論点・資料が一目で分かるマニュアルです</p>				

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	阿部 秀二郎	経済学問題研究	112
02	〃	経済思想と人間	112
03	浦出 俊和	環境と農業	113
04	大澤 健	グローバリゼーション	113
05	田村 剛	農村地域経済の活性化と環境保全	114
06	巖 善平	現代社会経済を考える	114
07	佐々木 和子	働き方を考える	115
08	〃	日本の現代社会を考える	115
09	服部 容教	マクロ経済学研究	116
10	松本 誠	地域政策とまちづくりを考える	116

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演 習 II (経 済 学 問 題 研 究)	0 1	通 期	4単位	阿部 秀二郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学とは何かを質問すると、さまざまな答えが返ってきます。そして我々が生きていの中で考えてゆかなければならない問題には必ずといっていいほど経済的な問題が含まれています。しかし18世紀には経済学はまだ確立されてはいなかったのです。つまり経済的な問題をどのように処理するのかという眼鏡ができてはいなかったのです。現代に至る過程において、「経済的には・・・」という考え方が整理されてきましたし、経済学で取り上げる問題が増えてきたのです。したがって経済学は今度も多くの問題を取り上げ、変化してゆく可能性があります。</p> <p>演習では経済学が歴史的に取り組んできた問題と経済学との関係を見てゆこうと思います。つまりどうして問題が生じたのか、どうやって問題を解決しようとしたのか、その結果経済学はどうなってきたのか、をじっくりと時間をかけて考えます。</p> <p>レポート→議論→レポート→議論・・・という形式で進みます。 目標は想像力と読解力と表現力の涵養です。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学の誕生 ・市場と国家 ・功利主義の思想 ・市場社会の変貌 ・大転換 ・法人企業の変容 ・ケインズ革命 ・不確実性と「期待」 ・市場と評価 <p>テキストの他に資料等を配布しますので、それを参考にして進めます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席とレポートの内容と発言を総合的に判断します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>教科書の末尾にあります文献と、演習時に随時指摘します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>間宮陽介著『市場社会の思想史—自由をどう解釈するか—』, 中公新書, 1999</p>				

経
済
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演 習 II (経 済 思 想 と 人 間)	0 2	通 期	4単位	阿部 秀二郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>本演習では、問題意識を持ってもらおうとともに何らかの形で解答を導くためのトレーニングを行いたいと思います。経済学が人間をどのように扱ってきたのかその教訓はどのようなものかについての考え方を認識、分析します。最終的には、経済学とは何かという経済学の問題を各人に確立してもらいたいと思っております。やがて専門的な知識を吸収することになる前に、ある経済学者によって指摘された「経済学を学ぶのは経済学者の見解にだまされないため」にも個人が自律的に思考できる能力をみにつけることを目標にします。</p> <p>レポート→議論→レポート→議論・・・という形式で進みます。2冊の書を読んでゆこうと思っています。 目標は想像力と読解力と表現力の涵養です。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の規律 ・「豊かさ」から「飽食」へ ・日本経済の「強さ」 ・「産業化」 ・産業文明の「無理」 ・「豊かさ」の果て ・自由放任の肯定 ・資本主義の「青春時代」 ・拝金主義 ・マルクスの直感 ・スミスの誤算 ・共産主義・計画経済 ・「失業」からの開放 <ul style="list-style-type: none"> ・政府の大きさ ・模索する経済学 ・人間とは何か <p>その後に参考文献で挙げる書を読み進めます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席とレポートの内容と発言を総合的に判断します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>神野直彦『人間回復の経済学』岩波新書, 2002</p>			
<p>[教科書]</p> <p>飯田経夫著『経済学の終わり—「豊かさ」のあとに来るもの—』, PHP新書, 2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ (環境と農業)	03	通 期	4 単位	浦 出 俊 和
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>我々が生きていく上で、「食」は必要不可欠であり、それを支えているのは「農」である。一方、現在進行している地球温暖化をはじめとする環境問題は、農業生産に大きな影響を及ぼしていると同時に、逆に環境に対しても影響を及ぼしていると考えられる。本演習では、農業との関連から環境問題を取り上げ、環境問題を考えるための知識や力を身につけることを目標とする。</p> <p>本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成力の向上を図ることを課題とする。さらに、参加者の討論への積極的な参加を重視する。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>前期では、環境問題を考える視点について取り上げる。 後期では、農業との関連で環境問題を取り上げる。 基本的には、共通のテキストを輪読し、分担報告と討論を順番に行ってもらい、その後、レポートを作成してもらおう。また、テキスト以外に、ビデオを見たり、適宜必要な文献を読んで、同じく討論を行った後に、レポートを作成してもらおう。 詳細については、初回に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、報告内容、レポートに加えて、授業参加への積極性（発言機会・内容等）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて演習の中で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1. 富山和子著『環境問題とは何か』PHP新書、2002年 2. 原 剛著『農から環境を考える』集英社新書、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ	04	通 期	4 単位	大 澤 健
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学に関する基礎的な文献について、ゼミ形式で読んでいきます。ゼミ形式の授業に慣れるとともに、「本を読んで内容を把握する」「内容をまとめる」「参加者が理解できるように発表する」「内容について議論する」といったベーシックなコミュニケーション能力をつけることを目的としています。</p> <p>本年度は「グローバリゼーション」に関する本を1年かけて読んでいく予定です。グローバリゼーションは市場経済の世界化を表現する言葉ですが、現在の世界の経済に何が起きているかを考えながら、経済についての基礎的な知識の習得を目指します。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>最初はスーザン・ジョージ/マーティン・ウルフ著「グローバリゼーション賛成/反対」という本を読みます。 その後、参加者のペースと興味関心にあわせて、その後のテキストを選んでいく予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の授業態度による。ゼミ形式なので、出席を重視します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>伊豫谷登士翁（いよたに・としお）著 「グローバリゼーションとは何か」（平凡社新書）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>スーザン・ジョージ/マーティン・ウルフ著 「グローバリゼーション 賛成/反対」（作品社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ（農村地域経済の活性化と環境保全）	05	通 期	4単位	田 村 剛
<p>〔演習概要・学習目標〕 近年、国民の価値観が徐々に変化し、「心の豊かさ」を追求する気運が出つつあり、それに伴って農村のもつ多面的な機能が着目され、農村のレクリエーションの場としての評価が高まっている。ところが、農村地域では過疎化や高齢化が進み、総体的に活力が低下しており、国民の期待に応えるには、農村地域経済の活性化が急務であるとされる。こうした状況下において活性化を図る場合、重要なキーワードとして、グリーン・ツーリズムやルーラル・アメニティが挙げられる。本演習では、それらのキーワードを通じて、農村にかかわる事象について関心や理解を深めてもらうことを目標とする。 本演習では、テキストの輪読をはじめ、報告・議論、レジュメやレポートの作成といった一連の作業を通じて、読解力や文章作成能力の向上を図ることを課題としている。</p>	<p>〔演習計画〕 本演習の前期では、グリーン・ツーリズムを取り上げ、その考え方や実際の取組内容について理解を深める。後期では、農村地域経済の活性化を図る上で重要となる環境保全の問題として、ルーラル・アメニティに着目し、その概念や取組内容について吟味していく。 基本的な演習形式としては、まずテキストを輪読した後、報告担当者にレジュメを用意してもらい、それに基づいて報告してもらう。次に各出席者に意見を出してもらい、基本的に報告担当者が中心となり、みんなで議論を行った後、レポートを作成してもらう。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席状況、報告内容やレポートの出来具合などを考慮して総合的に評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 演習時に随時指示する。</p>			
<p>〔教科書〕 1. 宮崎猛編『グリーンツーリズムと日本の農村』農林統計協会、1997年 2. OECD著、雑賀幸哉・吉永健治訳『ルーラルアメニティー農村地域活性化のための政策手段』家の光協会、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ（現代社会経済を考える）	06	通 期	4単位	巖 善平
<p>〔演習概要・学習目標〕 この演習では、現代社会に存在している様々な問題（とくに経済問題）を取り上げて分かりやすく説明する。例えば、日本経済の失われた十年をどう見るか、平等社会であった日本はどのようにして格差社会に移ったのか、若者の失業問題と労働市場の構造変化、少子高齢化社会の抱える様々な問題、経済開発と環境破壊、途上国の貧困問題、等々。特定のテーマに拘らず、人々の関心が割合集まっているいろいろな話題を受講生とともに選び出す。また、個々の問題については専門的に解説し深く考えてもらうというよりも、様々な問題の実態やそれらに対するいろいろな考え方を知ってもらい、そして、自らがそうした問題を考えるきっかけを見付けられたら、それでよい。この演習ではそうした目標の達成を目指す。</p>	<p>〔演習計画〕 ・最初の演習で主要な社会経済問題をリストアップして受講生の意見を聴取する。その上で各自の関心テーマを決めてもらう。 ・個々人または2、3人の小グループで、資料の収集、分析を行い、その成果を順次ゼミで発表する。全員の討論参加、教員による補足説明、解説を進める。 ・上記の作業と並行して、コンピュータによるレジュメの作成、データ処理、情報収集の基本を情報センターで実習する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 中間レポート+期末試験</p>	<p>〔参考文献〕 ・『日本の論点』近年 ・『日本経済新聞』、『朝日新聞』など</p>			
<p>〔教科書〕 未定。後日指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 II	07	通期	4単位	佐々木 和子
[演習概要・学習目標] 働き方が変わっていている。一体現実はどうなっているのだろうか。テキストを手がかりに、変化する働き方を考えてみる。また、テキスト以外にも目を向け、新しい動きの変化に着目する目を養う。テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。 演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。	[演習計画] 前期 まず、テキストを読んでみよう。 著者の言いたいところを読み取ろう。 決められた字数で内容をまとめられるようにしよう。 後期 テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。 みんなの前でまとめを発表してみよう。 議論を通じて、考えを深めよう。			
[成績評価の方法] 出席・課題提出など平常点を重視する。	[参考文献] 島本慈子『ルポ解雇』2003年 岩波新書 熊沢誠『女性労働と企業社会』2000年 岩波新書			
[教科書] 熊沢誠『リストラとワークシェアリング』2003年、岩波新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 II	08	通期	4単位	佐々木 和子
[演習概要・学習目標] 今私たちの生きている社会はどうなっているのだろうか。テキストの輪読を通じて、不安に満ちた現代社会を、自分たちの足元から考え直してみたい。 テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。 演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。	[演習計画] 前期 まず、テキストを読んでみよう。 著者の言いたいところを読み取ろう。 決められた字数で内容をまとめられるようにしよう。 後期 テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。 みんなの前でまとめを発表してみよう。 議論を通じて、考えを深めよう。			
[成績評価の方法] 出席・課題提出など平常点を重視する。	[参考文献] 暉峻淑子『豊かさとは何か』1989年 岩波新書			
[教科書] 暉峻淑子『豊かさの条件』2003年 岩波新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ	09	通 期	4 単位	服 部 容 教
[演習概要・学習目標] 経済学の基礎を身につけることを目的として、最も基礎的な知識をテキストを使って徹底的に理論の理解に努める。 主としてマクロ経済学に関する初級者向けのテキストを選び、担当者を決めてその内容を発表してもらう。担当者は授業の前までに発表内容の概略をコピーして参加者全員に配布してもらう。	[演習計画] 1 マクロ経済学とは何か 2 総産出量 3 GDPの構成 4 財市場 5 金融市場 6 財市場と金融市場 7 IS-LMモデル 8 期待： 名目利子率と実質利子率			
[成績評価の方法] 出席、発表等を参考にしながら、期末のレポートで総合的に評価する。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] 嶋田忠彦他訳 オリヴィエ・ブランシャール「マクロ経済学」(上)、東洋経済新報社、1999年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ (地域政策とまちづくりを考える)	10	通 期	4 単位	松 本 誠
[演習概要・学習目標] 21世紀社会は「国家」が後退し、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。 こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、分権型社会における政治、経済、社会の各分野における新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。	[演習計画] 本演習では、左記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。 1. テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。 2. 各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。 3. 報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める 4. 教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。 5. 報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。			
[成績評価の方法] 期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。	[参考文献] 田村 明著 「まちづくりの発想」(岩波新書) 地域情報会議編著 「地域の価値を創る」(時事通信社) 川村健一+小門裕幸著 「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社) 松本 誠著 「市民が変える明石のまち」(文理閣)			
[教科書] 田村 明著 「まちづくりの実践」(岩波新書) 神野直彦著 「地域再生の経済学」(中公新書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	01	通 期	4単位	麻 生 憲 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。</p> <p>本講義は、初めて経済学を学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な考え方、専門用語、図表ならびに統計データの見方などを概説する。</p> <p>知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して講義を進めていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下の内容を適宜選択して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学の基本概念 経済主体の行動様式 国民経済計算 家計の消費行動 企業の投資行動 貨幣の機能 財政・金融政策 失業と不況 貿易と国際収支 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験とレポートにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中にその都度指示をする。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。必要に応じてプリント配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	02	春学期集中	4単位	矢 根 真 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うのも経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回る人だけが購入すると考えるのです。すると、バイトに精を出すのもデートに出かけるのも、いずれもウーロン茶の問題と同じように考えることができます。実際、使用する教科書では、麻薬戦争・死刑制度から地球温暖化・希少動物の保護まで「経済学的に」分析しています。</p> <p>このような経済学的な考え方の基本は、参考文献で説明されているような数式やグラフで表されるモデル（模型となる見方）をうまく使って、本当は複雑で多様な現実をできるだけ簡単に理解しようとする点です。ですから学習目標は、「現実に興味を持ち抽象的に考える」という「経済学の基本的な考え方」を習得することです。</p> <p>教科書や参考文献の理解に特別な予備知識は必要ありませんから、社会・政治・法律・経済・経営等の現実問題に一般的な関心があれば誰でも受講できますが、抽象的な論理や数学を操って自分の頭で考えてみる訓練が重要になるので、自分でテキストに目を通し実際に問題を解いてみる習慣が大切になります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書に掲げられたテーマに沿って以下のような順序で解説する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新薬認可の経済学 2 航空安全の経済学 3 犯罪防止の経済学 4 酒・麻薬禁止の経済学 5 水利権の経済学 6 農業保護の不経済学 7 高医療費の経済学 8 妊娠中絶の経済学 9 家賃規制の経済学 <p>その際、教科書に出てくる専門用語や基本モデルの説明は、参考文献等を適時用いて補足する予定です。参考文献は、中学程度の数学しか用いておらず、誰でも自習できる入門書ですが、今後もミクロやマクロを効率的に学習したい経済学部生には「経済（学のための）数学（入門）」の履修が非常に役立つでしょう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の総合計点が6割以上を合格ラインとする予定</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社(¥3000) 初級のミクロモデル全般をカバーした読みやすい入門テキストです ▶教科書や参考文献関連の詳細情報は教員サイトを参照して下さい http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/guid/sample.htm 			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノース・他(1995)『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社(¥2300) ノーベル賞経済学者らによる現実の社会問題を題材にした入門テキストです 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	03	秋学期集中	4単位	河合勝彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、経済学を初めて学ぶ諸君を対象として、経済学の基礎的概念を説明することを主眼とする。ただし、その基礎的概念というのは、「経済・社会制度の実務知識」というよりも、むしろ「経済学的な思考法」が中心であるということに留意して欲しい。</p> <p>経済学的な思考法とは、人間および企業を、合理的な（目的にかなっている）行動をする主体として捉え、演繹的手法（一般的な原理から、特殊な事実を推理・説明すること）でもって、その行動予測をおこなうことである。そして、この行動予測の確からしさこそが、理論の有用性を証明するものと考えられる。</p> <p>なお、教員、学生がお互いに学び合う姿勢で講義に望みたい。よって、どんなに基礎的な質問でも躊躇しないで質問してほしい。積極的な受講態度を希望する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>受講生諸君が、上級クラス受講のための最低限の知識を習得することを目標として、以下のトピックから適宜選択する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、経済学の考え方 2、家計の消費行動と貯蓄 3、企業の生産行動 4、市場の失敗と政府の役割 5、金融の仕組み 6、国民経済計算の仕組み 7、政府の財政・金融政策 8、国際経済 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	04	秋学期集中	4単位	中村 勝之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「情報化社会」と言うは易しいが、これはインターネットなどで情報を検索すること「のみ」を意味しない。インターネットは情報を探するための手段を提供してくれるが、その情報が自分にとって有用かどうかを判定するには、検索した人自身の「判断能力」が大きく問われる。</p> <p>日本経済に関する「情報」もこれに似ている。日々新しい経済情報が流されているが、果たしてそれが本当に正しい情報か？もし正しいとして、その根拠は何か？根拠が明らかになったとして、それに対して自分はどういった行動をとればいいのか？こうした「？」に自分なりの解答を与えようと思えば、これらの基礎となる部分についての知識が必須となる。</p> <p>そこでこの講義は、経済「情報」の判断能力を養う上での基礎を鍛え上げるために提供されるものである。情報としての素材は、毎年内閣府が発行している『経済財政白書』を利用する。そして『経済財政白書』を読解するための理論を、できる限り王道にのって（すなわち、数学を適宜利用して）解説していく予定にしている。</p>	<p>[講義計画]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講義中における出席は一切とらない。 ②講義期間中5～8回をめぐりに小テストを行う。 ③講義期間中に中間試験および期末試験を行う。 ④小テスト・中間試験・期末試験の結果を総合的に評価する。 	<p>[参考文献]</p> <p>『経済財政白書』（平成15年版）ただし講義期間中に16年版が出ていたら、そちらを使う。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論B	0 1	通 期	4 単位	石 橋 貞 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学への入門的な講義です。経済学の基礎的な考え方や理論を説明し、それを基礎としながら、具体的にマネー経済からみた現代資本主義入門をめざします。日本経済についても、グローバル化下では「世界のなかの日本」という視角なしには、考えることができなくなっています。本講義では、そのような視角の下で、世界通貨体制や日本経済の現状についてできるだけ説明していきたいと思ひます。</p> <p>目標は2つあります。1つは、現実の経済現象について、新聞等をおとして正確な理解が得られるような基礎的な知識を身につけるといふことです。2つめは、さらに今後、経済学をより理論的・実証的に学んでいく上での、経済的な考え方や関心をもていただくといふことです。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書に即しながら、一方では基礎理論を補足しつつ、他方では新聞・経済雑誌等からの具体例をできるだけ参照して講義を進めていく予定です。講義計画は次のとおりです。進捗状況に応じて変更の可能性はあります。</p> <p>(1) ガイダンス (授業の進め方、講義内容の紹介) (2) 円高・円安とは何か (3) 円高・円安と日本経済について (4) これまでの円の動きについて (5) デリバティブとヘッジファンドについて (6) ヘッジファンドと債券危機について (7) ボンド危機の背景 (8) アジア通貨危機について (9) ロシア危機とヘッジファンドの危機 (10) これからの国際通貨体制 (11) 銀行の仕事について (12) 日銀の仕事について (13) 日銀とインフレ・デフレについて (14) プラザ合意について (15) バブル経済について (16) バブル崩壊後の日本経済について (17) 景気対策について (18) 借金大国日本について (19) 国債について (20) 府の財政政策の現状について (21) 日銀の金融政策の現状について (22) まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験、出席状況による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>馬渡尚憲代表編集『現代の資本主義－構造と動態－』御茶の水書房、1992年。講義の担当者自身も、一部執筆しています。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>細野真宏『経済のニュースがよくわかる本（日本経済編）』小学館、2003年。 細野真宏『経済のニュースがよくわかる本（世界経済編）』小学館、2003年。</p> <p>(生協にて一括購入し販売する)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論B	0 2	通 期	4 単位	大 澤 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>わたしたちが暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義」と呼ばれる社会です。「市場」「商品」「貨幣」「資本」といった言葉は日常的に使われる言葉ですが、改めて説明するとなかなか難しいものです。</p> <p>「経済学」とはこの市場経済を扱う学問で、この講義では市場経済についての基礎的な知識と理論の習得を目指しています。上に上げたような「市場経済」の基本的な言葉の意味と概念を説明しながら、それらがどのような特徴を持ち、どのように運動するものなのかを考えていきます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前半></p> <ol style="list-style-type: none"> 市場と商品 <ul style="list-style-type: none"> 市場とは何か 商品とは何か 貨幣または商品流通 <ul style="list-style-type: none"> 貨幣とは何か 貨幣の諸機 貨幣と通貨制度 資本 <ul style="list-style-type: none"> 資本とは何か 資本主義的生産の諸特徴 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末に行う試験の成績によって評価する。 適宜、レポート等の課題を出した上で、それを「加点」要素として評価する。 レポートは各学期中に一回程度課す予定。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴田信也編著「政治経済学の原理と展開」（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論B	03	秋学期集中	4単位	上野勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本経済が深刻な不況から脱出できず苦しんでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしょう。しかし、学問には「玄関あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。それがあれば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦勞して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一步一步着実に登っていかねばなりません。このことは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一歩のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくならないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回の講義時間に目次とスケジュールを知らせます。 資料プリント配布し、それにそって授業を進めますので要注意です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>山登りは、少しずつくまた退屈かもしれないが、一步一步登るといふプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を大事にします（そのために小テストを随時実施します）。そして、もちろん定期試験もします。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>川上則道 著「『資本論』の教室－きっちりわかる経済学の基礎－」（新日本出版社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使用しませんが、参考文献（「『資本論』の教室」）が講義の一番重要な指針になります。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一般経済史	01	通 期	4単位	富澤修身
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感ぜさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えると、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。</p> <p>講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I はじめに II 産業革命 1 イギリス産業革命 2 後発国・地域の工業化 III 18世紀の経済史 1 問屋制経営 2 協業 3 マニュファクチュア IV 19世紀の経済史 1 機械制大工業 2 鉄道経営 V 20世紀の経済史 1 大企業の登場 2 1930年代ニューディール 3 現代日本経済とリストラ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一般経済史	02	秋学期集中	4単位	前田 治郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達した。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げることにする。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か?」ということである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 前半には、経済史の発展を以下の3つの側面から取り上げる。すなわち、(a) 生産力の発展とは何か、(b) 経済システムの展開、(c) 国家とグローバリゼーション。</p> <p>2. 後半には、資本主義発展を理解するための基礎的諸概念を取り上げる。具体的には、産業革命、先進国と後進国、経済恐慌、独占資本主義、国際通貨体制、社会主義、福祉国家、グローバリゼーションなどである。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>秋学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学のための数学入門		春学期集中	4単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学で数学を多用するということを知っている人は多いと思います。しかし、小中高で学ぶ数学は数学という学問の一部です。そして、指導要領に縛られ受験の圧力にさらされているため決して健全な形でわかりやすい形でもありません。さらに、経済学で必要となる数学は受験テクニックではなく、高校までの数学ではあまり重きを置かれていない「言語」としての数学です。</p> <p>ですから、入試で必要となるテクニックなどを除外し広い視野で見ること、受験準備ではなく言語としての問題演習を繰り返すことで今まで苦手に思ってきた諸君にも経済学部で要求される数学の基礎が提供できるはず。この講義の目的はそのような、高いレベルから小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。</p> <p>自己充足的な講義を目指すので、小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定です。小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。</p> <p>なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていてください。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 数と式の復習 ・ いろいろな関数 ・ 微分概念 ・ いろいろな関数の微分 ・ 微分の応用 ・ 多変数関数☆ ・ ベクトル ・ 行列 ・ 行列式☆ ・ レオンチェフモデルへの応用 <p>なお、☆印の項目は進行状況によっては省略する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>数学入門, 遠山啓著, 岩波書店, 岩波新書 大道を行く高校数学 代数・幾何編, 橋 謙他著, 現代数学社 大道を行く高校数学 解析編, 安藤洋美著, 現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編, 安藤洋美著, 現代数学社 大学新入生のための数学入門, 石村園子著, 共立出版 やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分, 石村園子著, 共立出版</p> <p>その他は進行状況に応じて指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界経済事情		秋学期集中	4 単位	モグベル ザファル Moghbe l Zafa r
〔講義概要・学習目標〕 世界経済における今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の基本的な趣旨です。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになれば幸いです。 今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言ってられません。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、ボーダレスに迫って来ます。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がばやけて行く中で、世界の経済情報に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもありません。このような見地に立って、この講義では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明します。主に、右のテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義を進めます。ただし、「世界経済入門」以降のテーマについては順不同です。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 世界経済入門 <ul style="list-style-type: none"> 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味 現在の世界経済のルールとその期限 GATT・WTOと世界貿易 IMFと国際金融制度 国際収支の仕組みと、日本の国際収支の動向 経済グローバル化の光と影 地域主義と日本の対応：日本型FTAを巡って 開発途上国の実態と戦略 NI ES諸国の実態と戦略 アジア通貨危機の正体とは何か ODAは世界を貧困から救えるのか アメリカ経済の行方 石油とその他の一次産品の問題 			
〔成績評価の方法〕 成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。	〔参考文献〕 平成12年版通商白書「グローバル経済と日本の針路」 平成14年版通商白書「東アジアの発展と日本の針路」			
〔教科書〕 宮崎 勇、丸茂 明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史 (旧経済学史Ⅰ)	01 02	春学期集中 秋学期集中	4 単位 4 単位	熊谷次郎
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、主に経済学形成の星雲時代といわれる重商主義と、それを批判して登場してきた古典派経済学とを扱う。重商主義は理論としては主義といえるほどの体系性はなかったが、16世紀末から18世紀中葉過ぎまでの約200年間ヨーロッパにおいて支配的であった経済思想・経済政策である。理論的には未熟であっても、重商主義は経済社会を考える際の実に多彩なアイデアやコンセプトを含んでいるので、そうした重商主義の側面を提示したいと考えている。古典派経済学は、アダム・スミス、リカードウ、ジョン・スチュアート・ミルなど18世紀末から19世紀中葉にかけてのイギリスの経済学者が展開した経済学を一般には意味するが、経済学を学ぶ以上、彼らについて一定の知識をもつことは経済学の基礎文法を知るようなもので、現代経済学の理解にも不可欠であろう。講義の性質上、歴史と深く関係するので、歴史に興味のない諸君は受講しない方がよい。	〔講義計画〕 前半はテキストをもとに重商主義について講義する。重商主義を基本的には貨幣的体系の経済学としてとらえたうえで、その多様な経済社会の把握が受講生の現代社会把握の一助になればよいという観点で講義する。 後半は古典派経済学を実物的体系ととられたうえで、資本主義が台頭し、支配的な経済システムとなっていく過程で何が問題であったのかを明らかにすることに力点を置く予定である。			
〔成績評価の方法〕 月に1度の小テスト（15～20分程度）と期末テストの成績によって評価する。小テストは3回（1回につき100点満点、計300点）、期末テストは1回（700点満点）。合計1000点満点で、600点以上を合格とする。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 竹本洋・大森郁夫編著『重商主義再考』日本経済評論社、2002年、2800円。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 経 済 史	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4 単 位 4 単 位	梅 本 哲 世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。</p> <p>歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史の基本概念 2. 幕末の経済と開港 3. 明治維新 4. 殖産興業と松方財政 5. 近代産業の発達－軽工業 6. 近代産業の発達－重工業 7. 日清・日露戦争と日本経済 8. 第1次世界大戦と日本経済 9. 1920年代 10. 昭和恐慌 11. 高橋財政 12. 戦時経済 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験の成績により評価する。 講義の区切りに感想を書いてもらい、成績評価の参考にする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>石井寛治著『日本経済史 [第2版]』（東京大学出版会） 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三和良一著『概説日本経済史 近現代 [第2版]』（東京大学出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋経済史		春学期集中	4 単 位	前 田 治 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス産業革命と各国の対応 2. イギリス資本主義の再編成 3. パクス・ブリタニカの生成と発展 4. 大不況期と独占資本主義 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>春学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理論		春学期集中	4単位	河合勝彦
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>経済学部生のための情報処理基礎を講義する。つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとは（コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能） 2. 情報社会とコンピュータ 3. コンピュータによる情報の表現 4. コンピュータによる計算の仕組み 5. コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置 6. パーソナルコンピュータの仕組み 7. ソフトウェアの構成 8. オペレーティングシステム 9. パソコン用ソフトウェア 10. コンピュータ・ネットワーク 11. 学内の情報環境について 12. 経済学の研究・学習とコンピュータ1（インターネット資源の活用） 13. 経済学の研究・学習とコンピュータ2（統計処理） 14. 経済学の研究・学習とコンピュータ3（シミュレーション） 15. プログラミング言語の種類と特徴 16. アルゴリズムと流れ図 17. プログラミングの基礎1（データの型と構造） 18. プログラミングの基礎2（効率的アルゴリズムの選択と設計） 19. プログラミング1（データの整列法） 20. プログラミング2（線形探索と二分探索法） 21. 計測と制御 22. 経済学とコンピュータ 		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>		<p>〔参考文献〕</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法情報学 (旧経済学特講－法情報学)		通 期	4 単位	福 永 正 三
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>情報技術の進展にともない、情報はますます多機能化し、その使い道は拡大・伸張の一途にある。その結果、われわれの生活は簡便かつ効率的になる反面、情報をめぐるトラブルは精神的にも経済的にも多発し、それによる影響は深刻化してきた。</p> <p>このような事態に社会的なルールはどう対応しようとしているのか。例えば、個人情報をもろく捕捉され、いつ暴かれるかもしれない人々の精神の平穏の確保、あるいは技術的にいとも簡単に盗用できる知的財産の保護などの要請に、法的な手当ては十分なのだろうか。</p> <p>また、今日の情報にかかわる技術環境に我々はどう向き合っていくべきなのだろうか。例えば、Webを通じて個人があたかも放送局をもてるような状況に、われわれが「心すべき」ことがあるとすれば、それは何なのか。情報に関するモラルと法的な規制との関係はどうか。</p> <p>本講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を連携的に学習することを目的とする。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会の諸相とその特質 2. 情報と法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報保護法制・概論 2) 人格権としての情報の保護 3) 財産権としての情報の保護 4) 刑事法による情報の保護 3. 情報と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) データの収集・管理と情報倫理 2) 電子メール・Webページと情報倫理 3) セキュリティ技術と情報倫理 4) 情報公開と情報倫理 4. 情報社会における人間像 		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テストを行い、学年末の総合テストとともに、これらの結果を総合評価する。</p>		<p>〔参考文献〕</p> <p>講義の進行にあわせて図書館に所蔵されている適当な参考文献(雑誌論文を含む)の探し方を教示するとともに、教科書を補充するための参考資料として法令の条文や判例等をプリントして配布する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>原田三朗(他著)『新・情報の法と倫理』(北樹出版、2003)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	0 1	秋学期	2単位	河合勝彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの基本操作を既に習得済みの受講生を対象とした。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	0 2	秋学期	2単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	03 04	秋学期 秋学期	2単位 2単位	村松郁夫
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習課題の提出状況、内容により評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	05	秋学期	2単位	義永忠一
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート・テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>実習を行うための資料、課題をプリントで配布しますので、教科書は必要ありません。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)	01	春学期	2単位	河合勝彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)	02	春学期	2単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)	03 04	春学期 春学期	2単位 2単位	村松郁夫
[演習概要・学習目標] 経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。	[演習計画] 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析			
[成績評価の方法] 実習課題の提出状況、内容により評価する。	[参考文献] Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。			
[教科書] 毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)	05	春学期	2単位	義永忠一
[演習概要・学習目標] 経済情報や経済統計データの入手方法・探索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、探索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済計算の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。	[演習計画] 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報資源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析			
[成績評価の方法] レポート・テスト	[参考文献]			
[教科書] 実習を行うための資料、課題をプリントで配布しますので、教科書は必要ありません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学総論		秋学期集中	4単位	野田知彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析手法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義のはじめに指示する</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回のテスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『統計学入門』第2版』森棟公夫著 新世社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																								
日本経済論		春学期集中	4単位	鈴木健																																								
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>戦後の日本経済は、政治（外交）＝軍事上の対米従属を至上命題とする、いわゆる政官財癒着の統治枠組みのもとで、国家が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積を支える経済システムとして再建・確立され、機能してきた。ところが、いまそれが内外に累積する諸矛盾によって機能不全に陥っている。日本経済の根幹をなす大企業＝大銀行システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。本講義の目標は、こうした行き詰まりに直面する日本経済の現状を理解するのに必要な最低限の基礎的知識について講義し、理解してもらうことにある。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>ガイダンス、第1章</td> <td>第11週</td> <td>第6章</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>第1章</td> <td>第12週</td> <td>第6章</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>第2章</td> <td>第13週</td> <td>第6章</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>第3章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>第3章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>第4章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>第4章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>第5章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>第5章</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>第5章</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				第1週	ガイダンス、第1章	第11週	第6章	第2週	第1章	第12週	第6章	第3週	第2章	第13週	第6章	第4週	第3章			第5週	第3章			第6週	第4章			第7週	第4章			第8週	第5章			第9週	第5章			第10週	第5章		
第1週	ガイダンス、第1章	第11週	第6章																																									
第2週	第1章	第12週	第6章																																									
第3週	第2章	第13週	第6章																																									
第4週	第3章																																											
第5週	第3章																																											
第6週	第4章																																											
第7週	第4章																																											
第8週	第5章																																											
第9週	第5章																																											
第10週	第5章																																											
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期中に行うテスト（10回）の受験回数（6回以上）と点数（6割以上）を勘案して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>井村喜代子『日本経済論』（有斐閣） 橘川武郎『日本の企業集団』（有斐閣） 中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社） 橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会） 大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、1998年） 工藤兎『現代帝国主義研究』（新日本出版社、1998年） 鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年） 鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、1998年）</p>																																											
<p>[教科書]</p> <p>大槻久志『やさしい日本経済の話』（新日本出版社、2003年）</p>																																												

上記教科書については、生協にて一括購入し販売する。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想史 (旧社会思想史概説)		春学期集中	4 単位	坂 昌 樹
[講義概要・学習目標] 社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的な思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史の状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。 学習の重点は、われわれの社会制度のもとにある西欧思想、ならびに日本人の考え方の違いを確認することにあります。思想といえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思ひます。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。	[講義計画] I. 導入：社会思想とはなにか II. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観 III. 個人主義の確立：キリスト教による個人の折出、マキアヴェッリ、ルター IV. 近代国家の構想：ホッブズ、ロック、ルソー、（カント） V. 市民社会の秩序：スミス、（J. S. ミル） VI. （近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想） 講義の進捗状況によっては、上記（ ）つきの思想家や思想を省略することがあります。			
[成績評価の方法] 学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。	[参考文献] 必要があれば、講義中に指示します。 連絡先：(研究室) アンデレ館 7 階 725 室 (tel) 0725-54-3131 (内線) 3725 (Email) ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。			
[教科書] 指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科学入門		通 期	4 単位	大澤 健
[講義概要・学習目標] 「社会科学」とは、「社会」で起こっている現象（問題）に何らかの説明を付けようとする営みを指しています。自然の中で起こることに説明を付けようとする「自然科学」の対概念です。 社会科学は「社会」という広い範囲に生じる様々な問題を扱うわけですが、われわれが「社会」と言われる社会は「市場経済」と言われる社会ですから、市場経済とはどのような社会なのかを考えることで社会に起こる様々な問題を理解することができまふ。 この講義では、まず、実際に社会の中で生じる様々な社会的な問題をビデオで見せられ、それについて「なぜ、そのような問題が生じるのか」を考えてもらひます。その後で、われわれが暮らす「市場経済」がどのような特徴を持つ社会なのかを考えながら、それらの問題について説明していきます。	[講義計画] 1. 「公害問題」－高度成長期になぜ公害が起こったのか？ 2. 「環境問題」－市場経済の特徴が生む環境問題 3. 「市場経済のパワー」－市場が持つダイナミズムと社会的インパクト 4. 「労働問題」－市場経済における働く人の姿 5. 「大衆消費社会」－大衆消費社会の実現と人々の暮らし 6. 「不況問題」－不況はなぜ発生するのか 7. 「不況と国家の変質」－20世紀の経済の仕組みと国家の役割 8. 「民族問題」－民族対立はなぜ生じるのか 9. 「NPOとNGO」－21世紀の市民の時代とは			
[成績評価の方法] 秋期末の試験と授業でのレポートで評価します。 この講義では、ビデオと講義を1回ごとに繰り返します。ビデオを見せられた翌週に内容と課題についてのレポートを提出してもらひます。レポートは「加点」要素として考慮します。つまり、レポートを出さないからといって試験の点数がマイナスされるとはありまふせん。 ただし、レポートをキチンと出すことをお奨めします。	[参考文献]			
[教科書] 用いない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		春学期集中	4 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。 特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し、分析すること、などを重視したい。</p> <p>まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「俠客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。</p> <p>また、大阪の歴史に関する博物館の見学や大阪のまちを歩くフィールドワークも企画する。</p> <p>全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下のようなテーマを論じる予定。</p> <p>明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に—</p> <p>米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「俠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配</p> <p>ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 佐藤信・吉田伸之編『都市社会史』（山川出版社、2001年）</p> <p>以上のほか、授業のなかで随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>随時、プリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	0 1	通期	4 単位	河野 勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。</p> <p>その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）& アカウンタビリティの必要性が最重要視されている。</p> <p>決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。</p> <p>企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。</p> <p>更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前半></p> <ol style="list-style-type: none"> 複式簿記の原理…(1)簿記の意義と目的 (2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益） (3)簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目） 仕訳帳と元帳…(1)仕訳と仕訳帳 (2)転記と元帳 試算表…(1)試算表の意味と種類 (2)試算表の貸借合計不一致 決算（その1）…(1)決算の意味と手続 (2)帳簿決算（英米式・大陸式） <p><後半></p> <ol style="list-style-type: none"> 取引の記帳…(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳 商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引 決算（その2）…(1)決算整理の意味(2)棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>加古 宣士・渡部 裕亘（編著） 「新検定簿記講義3級」（中央経済社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>・ 中田信正・徐 竜 達・堀 友章・全 在紋（共著） 「現代簿記論」（中央経済社）</p> <p>・ 加古 宣士・渡部 裕亘（編著） 「新検定簿記 ワークブック3級」（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	02	通 期	4単位	山 本 浩 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業は、利益を獲得することを目的として、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。</p> <p>簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験は年に3回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期 ①複式簿記の計算原理（損益法と財産法） ②複式簿記の計算構造 ③勘定と記帳 ④試算表、精算表 ⑤決算</p> <p>後期 ①個別勘定科目の処理－現金、当座預金 ②個別勘定科目の処理－商品 ③個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金 ④個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定 ⑤決算手続きと決算整理事項</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定3級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験3級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋共著『現代簿記論』中央経済社</p> <p>加古宜士・渡部裕巨編著『新検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (外国直接投資と発展途上国)		通 期	4単位	カ 何 イ 為
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>世界における直接投資の大部分は先進国間での直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けることに成功した。直接投資は受け入れ国の発展途上国に対してどのような影響を与えているだろうか。本講義では、中国を中心に考えたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義及び発展途上国におけるその経済的な役割に関する理論を講義する。 後期：中国経済における直接投資のインパクトについて概括的な説明を行う。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>評価は出席、レポートをもって行う。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>適宜指定する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経済学特講（証券の基礎知識） 経営学特講（証券の基礎知識） （旧経営・商学特講（証券の基礎知識））		春学期	2単位	中野 瑞彦
<p>〔講義概要・学習目標〕 本講義は、日本の代表的な証券会社である野村證券株式会社の専門講師陣によるインテグレーション講座である（2002年度から開講）。</p> <p>現代の金融経済では、直接金融の比重が高まってきており、証券化の流れが急速に進んでいる。その中で証券市場が果たす役割はきわめて大きいものがあるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースにわかりやすく解説してくれるのが、この講義の眼目である。</p> <p>証券市場と証券投資の現実を知ることは、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけでなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。</p>		<p>〔講義計画〕 次のような内容を予定している、ただし、ガイダンス以外は諸般の都合により、変更されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経済情報の捉え方 3. 経済成長と金融資本市場について 4. 証券投資のリスク・リターンについて 5. 株式市場の役割と投資の基礎知識について 6. 債券市場の役割と投資の基礎知識について 7. 投資信託の役割とその仕組みについて 8. ポートフォリオ・マネジメントについて 9. 市場のグローバル化と証券投資について 10. 資産運用とライフ・プランニング 11. 資本市場における投資家心理について 12. 個人投資家と証券ビジネスについて 		
<p>〔成績評価の方法〕 期末試験をベースに評価する。</p>		<p>〔参考文献〕 氏家純一編「日本の資本市場」東洋経済新報社、2002年</p>		
<p>〔教科書〕 野村証券投資情報部編「証券投資の基礎」丸善株式会社、2002年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（経済学検定試験対策講座A）		春学期	2単位	矢根 真二
<p>〔講義概要・学習目標〕 ERE（経済学検定試験：http://www.ere.or.jp/）は、公務員や大学院の受験と同じように、ミクロとマクロの比重が高く、特にミクロでは偏微分等の計算力を要する問題が毎年出題されています。本講義は、こうした受験に関心を持つ学生を対象に、過去のミクロ経済学の試験問題にトライすることで、「ミクロ経済学」の実践的な問題解法能力を高めることを学習目標としています。</p> <p>ですから授業形式としては、こちらで用意する過去の試験問題を実際に解いてもらい、疑問点のみを解説する実践的な演習形式を予定しています。そのため、参加者の基本的なミクロ経済学の理解と高校程度の微分等の計算力（もしくはそれぞれ「経済原論 IA-1」や「経済（学のための）数学（入門）」などの履修）を前提にして授業を進めます。</p> <p>とはいえ実際に授業を進めるにあたっては、ミクロ経済学の簡単な復習も不可欠でしょうから、コンパクトなテキストに沿って右記のようなテーマの順に、まず簡単な類題を通じた解説を行ったうえで、実際に当該分野の過去の問題を解いてもらい、その疑問点を再び解説するという形を取るようになるでしょう。</p>		<p>〔講義計画〕 次のようなテーマの順序で解説・問題演習を進める予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本概念 2 競争市場の部分均衡モデル 3 効用関数と家計の行動 4 生産・費用関数と企業の行動 5 一般均衡分析とエッジワースボックス 6 独占と寡占 7 外部性と公共財 8 情報の経済学 9 ゲーム理論 10 異時点間の消費 <p>ただし実際に試験問題を解いてもらうと、多く出題される傾向のある消費や生産の基本問題には計算力が必要なため苦手とし、むしろ後半の応用問題の方がやさしいと感じる人が多いこともあるので、受講者の学力や希望に応じて学習の順序や重点を決め直す方がよい場合もあるでしょう。</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 少人数が予想されるので受講者と相談のうえ決定する予定です</p>		<p>〔参考文献〕 配布する過去の問題と解答が理解できれば、特に必要ないでしょう。解答を見ても理解できない場合には、ミクロ経済学や数学力といった個々の弱点に応じて相談に応じます。</p> <p>▶教科書や参考文献関連の詳細情報は教員サイトを参照して下さい http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/guid/sample.htm</p>		
<p>〔教科書〕 ●西村和雄(2001)『ミクロ経済学』岩波書店(¥2800) 試験対策として利用できる最もやさしいコンパクトな入門ミクロのテキスト</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（経済学検定試験対策講座B）		秋学期	2単位	中村 勝之
<p>【講義概要・学習目標】 前期で行われた同講義（経済学検定試験対策講座A）から引き続き、この講義では、経済学検定試験の対策として、出題頻度の高いマクロ経済学を中心とした解説を行っていく。なおこの講義は経済学検定試験ばかりではなく、公務員試験（国家Ⅱ種・地方上級）・公認会計士試験・FP（ファイナンシャル・プランナー）などの対策にも役立つものである。したがってこの講義は、こうした諸資格にも役立つような工夫をする予定にしている。</p> <p>この種の「資格」対策の講義が大学に設置されて久しいが、学生には問題「数」をこなして「出題パターン」を把握しようとする傾向にある。しかしマクロ経済学に限って言えば、このアプローチは役立ちにくい。なぜなら、マクロ経済学と同じ分野において複数の理論が個別に並立しているが故に、「ミクロ経済学」ほどの一貫した体系性を持ち合わせていないからだ。その意味でこの講義では、より一層の復習への努力と「数学」を利用することに対する覚悟が必要である（諸学生の学力を考慮して問題を出題してくれるほど、世間は甘くない）。</p>	【講義計画】			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>①講義中の出席は一切とらない。 ②講義期間中3～4回をめぐりに小テストを行う。 ③期末試験を行う。 ④小テストおよび期末試験の総合により評価を行う。</p>	<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋知也〔2002〕『私大文系のマクロ経済学』 中央経済社 ・大塚晴之〔2002〕『実践経済学』 同文館出版 			
<p>【教科書】 使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 （ファッション産業論）		通 期	4単位	富 澤 修 身
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>消費や消費社会についての議論が盛んである。過剰生産と過剰消費が大きな問題となっている。この2つの過剰の組み合わせは、きわめて現代的課題である。しかも過剰消費が、個人レベルでの豊かさにつながりつけないだけでなく、地球社会レベルでは解決の急がれる大問題を生み出している。生産し、消費すれば、豊かになれる、幸せになれるという大前提を再検討しなければならない状況に立たされているといえよう。</p> <p>経済学や経営学からの従来の研究は、生産中心でもよかったが、現代の問題状況は、もはやこれでは不十分である。生産と消費を同時に扱う必要がある。</p> <p>豊かさの欠如（感）という点では、人間の欲求を扱う必要がある。経済学に美の視点を取り入れる必要がある。それゆえ、大きく構えれば、「消費と美」の領域に分け入るために、ソーシャルサイエンスとヒューマンサイエンスの両視点を踏まえる必要がある。</p> <p>以上のような問題意識を踏まえて、ファッション産業論を講義する。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会、衣服、ファッションビジネス 2. 資本主義社会における消費 3. 衣服の変化とファッション現象 4. 20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化 5. 世界繊維産業の見取り図 6. 3大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容 7. 日本のファッション産業システム 8. ファッション産業システムの情報化 9. ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動 10. 縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部 11. ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業 12. 都市生活のファッション化とファッションビジネス創造 13. 繊維アパレル産業と社会的責任 14. 終章 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【教科書】</p> <p>富澤修身著『ファッション産業論』（創風社、2003年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（戦後世界経済の中の日本） Japan in the Postwar World Economy		秋学期	2 単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This is an introductory course on the Japanese economy as seen particularly from the perspective of developments in the postwar world economy. The purpose of the course is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and to review Japanese responses to major international economic events and developments. Lectures will cover key issues and turning points in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan may expect to play in the global economy of the future.</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the Japanese economy today <ul style="list-style-type: none"> ● Statistical overview ● Japan's foreign trade and investments ● The unfolding demographic crisis 2. Phoenix risen from the ashes: Rejoining the community of nations 3. Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth 4. Limits to growth: Environmental crisis and oil shocks 5. A season for Japan bashing and the logic of incremental adjustment 6. Plaza Accord and learning to live with "yen-daka" 7. Japan's bubble economy: Policy failure and irrational exuberance 8. Limits to Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis 9. Vision for Japan in 2020 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席および試験結果を総合的に評価して行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>David Flath, The Japanese Economy (Oxford Univ. Press)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（日本経済入門） Introduction to the Japanese Economy		秋学期	2 単位	Mitsuhiko Iyoda (伊代田 光彦)
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?</p> <p>This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc. Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc. Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic changes during the past half century.</p> <p>I will make an effort so that students may easily understand this lecture. I will try to use charts and tables as much as possible. I will explain a basic theory when I consider it is indispensable for your full understanding. I hope you will accept the challenge of a lecture conducted in English. Do not hesitate to attend the lecture. The most important things are your spirit and regular attendance. Come and start now.</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Facts: Historical Changes of the Japanese Economy 3. Economic Growth <ol style="list-style-type: none"> (1) Positive effects (per capita income, durable goods, social capital, etc.) (2) Negative effects (inflation, environmental disruption, congested and less populated area, etc.) (3) What does GDP mean? 4. Bubble Economy and Its Consequence <ol style="list-style-type: none"> (1) Bubble ages (2) Deflation and unemployment 5. Income Distribution and Redistribution <ol style="list-style-type: none"> (1) Rich and poor (income and assets) (2) Pension schemes 6. Concluding Remarks (quality of life) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Evaluation will be based on the final examination, attendance, and short essays.</p>	<p>[参考文献]</p> <p>To be announced in class.</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Handouts will be provided.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門 (編入生用)		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
〔講義概要・学習目標〕 長期不況に陥っている日本経済について、その現状分析と長期不況とデフレ状態に陥っている原因の解明に取組み、その中で経済成長とは何によって規定されたかについて考察を進めたい。 そして小泉内閣によって喧伝されたいわゆる「構造改革」とは何かについて検討し、日本経済の再生のために何をなすべきかについて討論し、考察を深めたい。	〔講義計画〕 テキストの順序に従いますが、日本経済の現状について1992年～2002年のGDPの成長、1990年代の経済危機とそれに対応した主要経済対策、失業率の増大、デフレーションの進行について講義を進める。 次にいわゆる「失われた10年」(実際は12年以上)の原因について需要不足説や供給過剰説、政策の失敗、とくに不良債権処理の遅れ(引当延ばし)などの諸説の比較検討を行ない、経済成長の規定要因を分析する。 最後に「構造改革」の内容を今も未だ、日本経済再生のための処方箋について討論を通じて考察を深めたい。			
〔成績評価の方法〕 出席状況、提出レポートの内容、期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。	〔参考文献〕 無数にあるがごく最新の文献に限定して紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> 金子勝著 『経済大転換—反デフレ・反バブルの政策等』 ちくま新書(2003年10月)¥680 大槻久志著 『やさしい日本経済の語』 新日本出版社(2003年11月)¥1,700 深尾光洋他著 『メガバンクと巨大生保が破綻する日』 講談社文庫(2003年11月)¥780。 			
〔教科書〕 吉川洋著 『構造改革と日本経済』 岩波書店(2003年10月刊) ¥1800+税				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論ⅠA-1 (ミクロ経済学)	01	通 期	4 単位	佐 橋 義 直
〔講義概要・学習目標〕 世の中では、たくさんの人や物を使って、多くの物が生産され、大勢の人々に分配されている。では、いったい、どの財がどのくらい生産されるか、またどのように生産されるか、さらにはそれらが誰にどれだけ分配されるかは、どのように決まっているのだろうか。また、人々が、何を生産するかや何を消費するかをばらばらに決定すると、経済全体では非効率な結果がもたらされることにはならないのだろうか。もし、そのようなことがないとしたら、それはどのような時か、そして、それはなぜか。ミクロ経済学は、これらの疑問に答える上で非常に有効な思考の枠組みを提供している。この講義では、ミクロ経済学の知識の習得を通して、複雑な世の中の仕組みを理解するための論理的な思考法を身につけることを目指す。	〔講義計画〕 前期： 消費者行動の理論、生産者行動の理論、市場均衡と効率性の理論の学習を通して、「市場均衡は効率性である」とする厚生経済学の第1定理の理解を目指す。主な内容は以下の通り。 需要と供給；消費の理論；消費理論の応用；企業と費用；生産の決定；市場と均衡；要素と所得分配 後期： 「市場均衡は効率性である」とする厚生経済学の第1定理が成立しないのはどのような時かを中心に学ぶ。また、ゲーム理論や社会選択論の基礎も学ぶ。主な内容は以下の通り。 独占；ゲームの理論；寡占；外部性；不完全情報；社会選択の理論			
〔成績評価の方法〕 前期試験(50%)、年度末試験(50%)に基づき評価する。	〔参考文献〕 特になし。			
〔教科書〕 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新生社、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)	02	春学期集中	4単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学の基礎理論について講義する。</p> <p>①家計(消費者)・企業(生産者)といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか</p> <p>②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか</p> <p>③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることなぜ望ましいといえるか</p> <p>といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。</p> <p>ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では、複雑な数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明する。</p> <p>なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の考え方 2. 消費者行動 3. 消費者の需要曲線 4. 企業行動 5. 企業の費用曲線と供給曲線 6. 完全競争市場の均衡 7. 独占の理論 8. 派生需要と生産要素市場 9. 不確実性と情報 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験および学期末試験の成績による。 詳細は初回に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-1 (ミクロ経済学)	03	秋学期集中	4単位	矢根 真二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学は「限界革命」以降の現代経済学の基本ですが、この講義では「経済学基礎理論A」や「経済学」といった入門経済学の講義より詳細かつ広範なミクロモデルを学習します。</p> <p>家計や企業といった個々の経済主体の行動から競争・独占市場の機能と成果といった伝統的なモデルをより詳しく学習するだけでなく、ギャンブルのようなリスクを避けられない場合や互いにライバルを出し抜きたい戦略的な依存関係の下での意思決定の仕方や結果といった比較的新しいモデルも学習できればと考えています。参考文献に見るように伝統的なミクロモデルも多くの社会問題に応用されてきましたが、情報やゲームのモデルはさらに新しい様々な問題に適用できるからです。</p> <p>教科書は予備知識の不要な読みやすい入門テキストですが、授業ではもう少し緻密な形でモデルを説明する機会が多いので、初歩的な微分の演算の理解が大きな鍵になります。数学が苦手な方は、「経済(学のための)数学(入門)」などを履修するか高校数学の復習から始めた方が効率的でしょう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書の第1・3部のテーマを以下のような順序で解説する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 学習する(しない)ミクロモデル 1 競争市場の需要と供給 2 家計の行動と市場の需要 3 企業の行動と市場の供給 4 競争市場の効率性 5 競争と独占 6 ゲーム理論と寡占 7 外部性と公共財 8 不確実性とリスク 9 情報の偏在 10 貯蓄と投資 <p>これらのモデルを説明する際、参考文献等を用いて具体的な社会問題への適用例を補足する予定です。時間が許せば、教科書の第2部の一般均衡モデルの解説に入ります。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の総合計点が6割以上を合格ラインとする予定</p>	<p>[参考文献]</p> <p>●ノース・他(1995)『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社(¥2300) ノーベル賞経済学者らによる現実の社会問題を題材にした入門テキストです ▶教科書や参考文献関連の詳細情報は教員サイトを参照して下さい http://rio.andrew.ac.jp/yane/lect/guid/sample.htm</p>			
<p>[教科書]</p> <p>●伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社(¥3000) 初級のミクロモデル全般をカバーした読みやすい入門テキストです</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	0 1	通期	4 単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標] 近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思っています。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずですよ。</p>		<p>[講義計画] 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス—貿易黒字と貯蓄— 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、リカード命題 10、長期の最適化と財政政策の有効性</p>		
<p>[成績評価の方法] 年度末試験</p>		<p>[参考文献] ・藤藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済 ・惣利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社 ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。</p>		
<p>[教科書] 特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	0 2	春学期集中	4単位	中村 勝之
<p>[講義概要・学習目標] 私のこれまでの教暦の経験から言えば、今の学生は「ミクロ経済学」よりも「マクロ経済学」の方が難しい印象を持っているようだ。その理由はいくつか考えられるが、確実に言えそうなことは、普通の消費者であり従業員であるわれわれにとって、経済全体の振る舞いを直接扱うことに対して感覚的な違和感を持っているからであろう。そうした違和感を持つマクロ経済学モデルで経済政策の効果について語っても、いまいち説得力がないのはそのせいかもしれない。逆に言えば、それだけマクロ経済学の抱える課題は大きいともいえよう。 そんなわけで今年度は、久しぶりにマクロ経済学を担当することになった。久しぶりであるが故に、しゃべるリズムが途中で崩れる場合もあるが、温かく見守っていただきたい。 それともう一つ。ミクロ・マクロとも真面目にやろうと思えば、「数学」を切り離すわけにはいかない。この講義では数学（高校初級程度）を積極的に使おうと思っているので、受講する者はこれと合格率の低さを覚悟していただきたい。</p>		<p>[講義計画] ※ 今のところ、次のように考えている。 I. 国民経済計算 II. 消費関数理論 III. 投資関数理論 IV. 貨幣・利子理論 V. I. ~IV. の統合 IS-LM分析 ☆時間があれば、以下のこともやりたい。 VI. 失業理論 VII. 経済成長理論</p>		
<p>[成績評価の方法] ① 講義時間中の出席はとらない。 ② 講義中に5~8回をめぐりに小テストを行う。 ③ 講義期間中に中間試験および期末試験を行う。 ④ 小テスト・中間試験・期末試験を総合して評価を行う。</p>		<p>[参考文献] 適宜指示する。</p>		
<p>[教科書] 使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 2 (マクロ経済学)	03	秋学期集中	4 単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標] 近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。 経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。 もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。</p>	<p>[講義計画] 各章 3~4 回 1 マクロ経済学への導入 2 国民所得の概念 3 国民所得の決定とその応用 4 貨幣分析 5 国民所得の変動(変動と成長) 6 マクロ経済政策(総需要管理政策) * 時間に余裕があれば、7章(テキスト)以降についても講義する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 原則として年度末試験によって行うが、レポート(2回程度)を考慮する。</p>	<p>[参考文献] サムエルソン(著)『経済学(第13版上)』(岩波書店、1992年)</p>			
<p>[教科書] 伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	01	通 期	4 単位	石 橋 貞 男
<p>[講義概要・学習目標] 資本主義経済システムの根本的な把握を課題とします。まず、市場経済の基礎的な概念である商品・貨幣・資本についてくわしく講義し、次に資本主義経済の内的構造を分析し、最後に資本主義経済の編成機構を具体的に考察していきたいと思います。この編成機構の分析は、同時に、産業資本・流通業資本・銀行業資本・証券業資本・保険業資本といった諸資本への分化の必然性を明らかにするとともに、土地所有と地代を明らかにすることになります。そして最後に、景気循環の過程をみることによって資本主義経済の動的な過程を明らかにします。</p>	<p>[講義計画] (1)ガイダンス(授業の進め方、講義内容の紹介)(2)「序論」経済原論の対象と方法。(3)「商品」(4)「貨幣」(5)「資本」資本の概念規定と資本の3形式。(6)「労働=生産・配分・消費過程」(7)「資本の生産・流通過程①」資本の価値形成・増殖過程。(8)「資本の生産・流通過程②」資本の回転。(9)「資本の生産・流通過程③」資本主義生産・流通方法の具体的な発展のあり方。剰余価値率の上昇と剰余価値年率の上昇。賃金システム。(10)「資本の再生産過程」蓄積の二様式と人口法則、再生産表式。(11)「資本の競争」資本主義経済の編成原理と資本の利潤率をめぐる競争。(12)「部門間競争」均衡的社会的労働配分の表現。(13)「部門内競争」経済的効率追求の実現。(14)「土地所有と地代①」超過利潤の地代化。(15)「土地所有と地代②」差額地代第1形態・第2形態と絶対地代・独占地代。(16)「流通業資本①」分離化・独立化と自立化・系列化。(17)「流通業資本②」段階的分化と機能的分化。(18)「銀行業資本①」預金と決済機構。(19)「銀行業資本②」商業信用と銀行信用。(20)「銀行業資本③」銀行組織。(21)「証券業資本」資本結合と証券市場。(22)「保険業」リスクの回避。(23)「景気循環①」好況。(24)「景気循環②」恐慌。(25)「景気循環③」不況。</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験、出席状況による。</p>	<p>[参考文献] 星野富一・奥山忠信・石橋貞男編『資本主義の原理』昭和堂、2000年。 石橋貞男著『資本と利潤』税務経理協会、1992年。 馬渡尚憲編『経済学の現在』昭和堂、1995年。</p>			
<p>[教科書] 山口重克著『経済原論講義』東京大学出版会、1988年。 (生協にて一括購入し販売する)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論ⅠB	02	秋学期集中	4単位	滝田和夫
[講義概要・学習目標] マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的な理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておく講義が理解し易いであろう。	[講義計画] I. 経済学の対象と方法 II. 市場経済 1. 商品経済 2. 貨幣経済 III. 資本とその増殖 1. 貨幣の資本への転化 2. 絶対的剰余価値の生産 3. 相対的剰余価値の生産 IV. 価格と利潤 V. 資本の再生産と蓄積 1. 資本の蓄積過程 2. 社会的総資本の再生産過程 3. 利潤率の傾向的低下法則			
[成績評価の方法] 試験の成績による。	[参考文献] 置塩信雄(著)『マルクス経済学』筑摩書房 森嶋通夫(著)高須賀義博(訳)『マルクスの経済学』(東洋経済新報社)			
[教科書] 平井・北川・滝田(共著)『経済原論』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論Ⅱ		春学期集中	4単位	伊代田光彦
[講義概要・学習目標] 次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。 近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。 1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。 必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。	[講義計画] I 所得分配(理論、実態および政策) 1 はじめに 4 人的分配の分析概念 2 所得分配の基礎理論 5 所得・資産分配の実態 3 所得分配率 6 分配に関する政策の現状と問題点 II マクロ経済学の潮流 1 ケインズ経済学 国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策 2 反ケインズ派経済学 フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学 * 時間に余裕があれば、その後のマクロ経済学の展開(新ケインズ派理論、新古典派リアル・ビジネスサイクル理論)について講義する。			
[成績評価の方法] 原則として年度末試験によって行うが、レポート(2回程度)を考慮する。	[参考文献] 必要に応じて講義の中で指示する。			
[教科書] 伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済成長論		春学期集中	4単位	西川 憲二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。今日では、各国が世界的な規模で経済競争にさらされるようになった。この講義では、西欧諸国の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展の過程を検討して、経済発展の歴史的教訓を考察する。そして、経済学が経済発展をどのようにとらえているのかを簡単な経済成長理論モデルをもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力として技術革新の重要性を論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>経済成長とは 近代西欧とアメリカの経済発展 経済成長理論 日本の高度成長と現状</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、期末試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
計量経済学		春学期集中	4単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。この講義では、コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>記述統計のいろいろ 最小二乗法、決定係数 統計的推定と検定の考え方 回帰分析</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の小テストと学期末試験による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指定する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。プリントを配布する。2003年度講義資料は http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu03.html を参照のこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国民経済計算論		秋学期集中	4 単位	桂 昭政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、経済の動き、特に日本経済の動きを理解するうえで不可欠と言える。本講義では、国民経済計算の基礎知識について学習する。但し、2000年末からわが国の国民経済計算データが1993年に改訂されたSNAに（すべてではないが）準拠して公表されることになったので、93SNAの構造と特徴についても言及する。それとともにわが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも併せて行っていきたいと考えている。なお、理解を深めるために可能な限りデータのパソコン処理の実習を行っていききたいと思っている。</p>		[講義計画]	<ol style="list-style-type: none"> 1. SNAと日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面を中心に－ 2. SNAと日本の経済循環－ストック（資産）の側面を中心に－ 	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。</p>		[参考文献]	<p>武野秀樹『国民経済計算入門』（有斐閣） 中村洋一『SNA統計入門』（日本経済新聞社） 浜田浩児『93SNAの基礎』（東洋経済新報社） 桂 昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）</p>	
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済政策		春学期集中	4 単位	津 田 直 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度や秩序のレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。最初は経済政策論の思想や一般論を扱い、授業の後半は経済政策論の各論や日本経済における具体的問題を扱う。</p> <p>他の科目との関係について。経済理論の知識が必要となるので経済原論ⅠAを履修していることが望ましい。</p> <p>毎回、講義内容を要約した資料を配付する。</p>		[講義計画]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策論の対象と課題 2. 新自由主義と21世紀体制思想 3. サードエコノミーと社会的経済 4. 経済政策の目標と手段 5. 市場機構と経済政策 6. マクロ経済理論 7. マクロ経済理論と財政・金融政策 8. 日本の財政構造 9. 90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派 10. 金融政策 11. 雇用問題と政策 12. 規制緩和と政策 13. 社会保障と政策 14. 資源・環境問題と政策 	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストによる評価</p>		[参考文献]	講義の中でそのつど知らせる	
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財政学	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4 単位 4 単位	藤田 香
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>財政赤字をどうするのか？ 日本の財政赤字は、他のOECD諸国と比較しても最悪の状態にあるといえる。その一方で、福祉や年金、景気・雇用対策などに対する財政の多様な機能も求められており、国の財政は複雑化している。政府の財政活動は、国内問題を考慮することはもとより、経済活動がそうであるように、その制度や政策も国際化、あるいはグローバル化との対応の中で位置づける必要がある。 本講義では、国の財政の仕組みや実態について、国際比較も含め、図表や統計を交えながら検討し、財政がもつ現代的な問題を含めて包括的に取り上げる。 本講義の目標は、毎日の暮らしに関係する公の仕事について、そのサービスを提供するために、国がどのように収入を上げていくのか、国民が負担する租税とは、どのような仕組みであるのか等、について受講生自身が理解を深め、その問題についてとるべき方策を受講生自身が考えることです。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代財政と財政学 2 世界の財政 3 日本の財政 4 財政学説の展開 5 日本の予算・財政システム 6 公共投資と財政 7 社会保障財政 8 財政赤字と公債理論 9 財政投融资 10 環境と財政 <p>進行状況によっては、別のテーマも取り扱う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、小テスト、レポート、期末試験による総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の中で、適宜知らせます。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>神野直彦（2002）、『財政学』、有斐閣、3200円。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
金融論		秋学期集中	4 単位	木村二郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「新札発行」「ゼロ金利・量的緩和政策」「ベイオフ解禁」「不良債権問題」「年金問題」などという言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて貨幣や金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。 「貨幣」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのように変化しているのかを明確にしていく。そして、私たち生活する者にとって、この金融経済の動向や金融政策の持つ意味は何かを解明する予定である。 学習の目標としては、金融の基本的な理論と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テストと学期末試験の総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2000年 加藤出『日銀は死んだのか：超金融緩和と政策の功罪』日本経済新聞社、2001年 三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2004年度版）』日本経済新聞社、2004年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		秋学期集中	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標] 小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。 しかし、ベストセラーとなった『分数のできない大学生』の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。</p> <p>本講では、「経済学のための数学入門」程度の予備知識を持つ学生に、経済学への応用を視野に入れながら、右記の項目について説明した後に問題演習を行ないます。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。</p> <p>なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになってください。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの応用 ・関数 ・微分 ・行列とベクトル ・線形計画法 ・積分 ・微分方程式と差分方程式 <p>進行状況によっては他の事項も扱う。</p>		
<p>[成績評価の方法] 学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献] 入門・経済数学(下)、E.ドゥリング著、大住栄治他訳、シーエービー出版 大道を行く高校数学 代数・幾何編、橘 謙他著、現代数学社 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社 経済学のための数学入門、神谷他著、東京大学出版会</p>		
<p>[教科書] 入門・経済数学(上)、E.ドゥリング著、大住栄治他訳、シーエービー出版</p>		<p>その他は進行状況に応じて指示する。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済統計		春学期集中	4 単位	桂 昭政
<p>[講義概要・学習目標] 経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別分野の統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民所得統計の特質と利用 2. 産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用 		
<p>[成績評価の方法] 学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。</p>		<p>[参考文献] 吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社） 木下・土居・森編『統計ガイドブック 社会・経済（第2版）』（大月書店）</p>		
<p>[教科書] 岩井浩他（編著）『統計学へのアプローチ—情報化時代の統計利用』（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 II		秋学期集中	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何ができるかを伝授するだけでなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・情報センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・少なくとも自習課題を課す予定である。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。 	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習の提出物を中心に総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ その他は進行状況に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>10日でおぼえるJava入門教室、丸の内とら著、翔泳社</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
<p>経済情報処理演習 II</p> <p>(旧 経済学特講 - 経済情報処理演習 II)</p>		春学期集中	4 単位	荒木英一
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済分析におけるコンピュータ活用法について、演習を行う。 前半は、基本的に標準的なプログラミング技法を中心に、ソフトウェア間の連携や統計データ検索なども含めて、やや技術的な側面に重点をおいた演習を行う。後半は、前半で修得した技法を応用して、データ解析とシミュレーションを中心に演習をすすめていく。いくつかのテーマについては、十分実用的に使いこなせる(役立つ)レベルまで、こだわって掘り下げてみよう。 実習環境は、当面(少なくとも前半は)、Windows ペースで R などのフリーソフトを中心に進めていく予定。後半は、受講者数や進度に応じて、適宜に調整する。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>変数、ベクトル、マトリクス 反復処理、条件分岐、関数、ライブラリ 乱数、確率変数と確率分布 人生で役にたつ(かも知れない)計算いろいろ 記述統計の手法、景気動向指数や産業連関分析 企業財務データなどを用いた統計分析と多変量解析入門 動学モデルのシミュレーション</p> <p>など</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の課題提出と最終講義日に行う学期末試験による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。プリントを配布する。2003年度講義資料は http://rio.andrew.ac.jp/araki/comp03.html を参照のこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済地理学		秋学期集中	4単位	野 尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済地理学は経済活動や産業活動が具体的に各地域にどのように展開しているかを研究対象とする。その理論として、産業がどのような場所に立地し、集積するのかを説明する立地論や集積論がある。この授業では、特に日本の経済地理を中心に取り上げる。経済のグローバル化が進行し、産業空洞化のもとで、かつての地場産業の担い手であった中小企業でさえ、低廉な労働力を求めて、アジアに進出している。このような状況のもとで、各地域の経済を均等に発展させることが可能であるのか。あるいは、大都市圏や先進国に発展が集中する不均等発展はいたしかたのないことであろうか。考察することとしたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と経済 2. 経済活動の地域構造 人口集積・農業・工業・流通 3. 日本の経済地域 4. 大都市圏の経済 首都圏・京阪神・中京 5. 低密度地域の経済 北海道・東北・信州・四国・南九州・沖縄 6. 中密度地域の経済 北関東・東海・北陸・山陽・北九州 7. 経済地域システムの変化 8. 経済地域政策の新しい視点 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験（持ち込み不可）のみ。出席は一切、成績に考慮しない。得点が上位から3.50位以下の席次の履修者には単位を与えない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適時、紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>竹内淳彦・井出策夫、『日本経済地理読本』，東洋経済新報社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		秋学期集中	4単位	竹 原 憲 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>わが国の都市財政のしくみ・特徴・課題について検討する。 現代は都市の時代といわれている。ことに戦後のわが国の都市は、先進国のなかでも希な急膨張をとげてきた。総人口の80%が都市で生活し、大阪市の経済だけでもアジア7番目のトルコよりも大きい。いま日本の都市経済は、長期不況とグローバル化のなかで大きな曲がり角に立たされている。さらには、地方分権改革や小泉「三位一体改革」によって、都市行財政も見直しを迫られている。巨大な都市経済・都市行財政の行方が注目されている。 だから、都市財政の実態を明らかにすることは、21世紀のわが国の経済社会を知るうえで重要な焦点の1つになっている。それはまた、これからの高齢化・国際化・分権化における私達の市民生活にとっても大切な検討課題である。こうした視点から日本の都市財政をみてみたい。 なお、付論として、地元和泉市の財政分析も考えている。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市財政の現状 2. 地方分権改革の内容と課題 3. 都市の財政支出 4. 都市の財政収入 5. 都市税制 6. 都市財政と財政調整制度 7. 国庫補助金と都市財政 8. 地方債と都市財政 9. 和泉市財政の現状 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義内容に関するレポートと期末の試験により総合評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済開発論		春学期集中	4 単位	望 月 和 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>テーマ：通念への挑戦</p> <p>イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。また私たちは、経済発展の結果生じた、または生じると考えられている色々な問題にも直面している。本講は経済発展に関する諸問題を取りあげて論じるものである。</p> <p>私たちを取り巻く色々な言説の中には、明白な事実として受け入れられているように見えて実はその根拠があやふやなものがたくさんある。例えば、「資源は有限で使えば使うほどなくなるのでいずれ資源は枯渇し経済成長はできなくなってしまう」と多くの人たちが信じている。ところが、資源の希少性を示す「価格」は下落し続けているのである。もし資源が少なくなれば価格は上がるはずだが現実にはそれと逆のことが生じている。つまり私たちが「常識」と思っていることが常識でも何でもなく、単にそう思われているだけであることがある。それをここでは「通念」と呼ぶ。今年度の講義では、とくに地球規模の環境問題と資源問題を中心に、人々が抱えている通念がいかに誤っているか、その通念を信じて行動すればどのような結果が待っているかについて論じていきたい。</p> <p>本講では、世間一般に信じられていることとは全く正反対の議論が行われることがある。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。過年度までの講義の内容については、4月初めに2003年度に配布したプリントを自宅のホームページ上に掲載する予定。 ホームページアドレス：http://www.cg-s.bias.ne.jp/~ponchan/</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第一部 経済発展の歴史的意義</p> <p>第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？</p> <p>第2章 進歩思想vs終末思想</p> <p>第3章 産業革命の意義</p> <p>第4章 第一次世界大戦</p> <p>第5章 大量生産方式の成立</p> <p>第二部 環境問題と成長の限界</p> <p>第1章 現代の終末思想としての環境問題</p> <p>第2章 今日の環境問題の種類</p> <p>第3章 オゾン層破壊</p> <p>第4章 地球温暖化</p> <p>第5章 生物種の多様性、砂漠化、森林破壊</p> <p>第6章 廃棄物問題</p> <p>第三部 資源問題</p> <p>第1章 資源と経済成長</p> <p>第2章 資源問題の真相</p> <p>第3章 エントロピーの妥当性</p> <p>第4章 経済成長に対する真の制約</p> <p>第四部 経済発展の要因</p> <p>第1章 経済発展の要因についてのこれまでの議論</p> <p>第2章 経済発展の要因としての秩序</p> <p>第3章 秩序の源泉</p> <p>第4章 まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績のみによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公共経済論		秋学期集中	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してか、また、適切な介入（政策）とはどういうものか、といったことについて明らかにすることが重要な課題となる。</p> <p>この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。</p> <p>公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論 I A-1 を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共経済学の対象 2. 厚生経済学の基礎 3. 公共財と公共投資 4. 外部性と環境問題 5. 所得分配と社会保障 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験および学期末試験の成績による。 詳細は初回に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。</p> <p>環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、特にミクロ経済学の知識が必要である。ゆえに、経済原論 I A-1 を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゴミ問題と経済学 2. 環境問題と経済学 3. 市場均衡と社会的総余剰 4. 市場の失敗と外部性 5. 公共財と環境財 6. 環境政策における経済的手段 7. PPPの原則とコースの定理 8. 非枯渇性資源問題とゲーム論 9. 環境価値の経済評価 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店） R.K.ターナー・D.ピアス・I.ペイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。</p> <p>http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中小企業論		春学期集中	4単位	義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、特に製造業を中心に取り上げ講義を行います。これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>教科書に沿った形式で進めていきます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に数回、小テストを実施します。期末に行うテストにより成績評価を行います。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>上田達三監修 田中充・佐竹隆幸編著『中小企業論の新展開』八千代出版, 2000年。 植田浩史編『産業集積と中小企業』創風社, 2000年。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>藤田敬三・竹内正巳編『中小企業論〔第4版〕』有斐閣, 1998年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域経済論		秋学期集中	4単位	芝村 篤樹
[講義概要・学習目標] 日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。	[講義計画] 1. 日本近代都市の形成 2. 1920・30年代の都市 3. 都市における戦前と戦後 4. 高度経済成長期の都市 5. 現代都市の課題			
[成績評価の方法] 夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験。 期末試験の比重は70%程度	[参考文献] 必要に応じて指示する。			
[教科書] 芝村 篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業組織論		通 期	4単位	田 中 悟
[講義概要・学習目標] 産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、産業の組織構造が経済に与える効果について考える。本講義では、ミクロ経済理論を応用することによって、産業の組織構造や企業間の相互依存関係がいかに企業の行動に影響を与え、これを通じて経済の成果(パフォーマンス)がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策(産業政策・規制政策・競争政策等)についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。	[講義計画] 講義はおおむね下記の章別構成にしたがって行う予定である。 第1章 産業組織論の対象と課題 第2章 競争と独占の経済理論 第3章 独占企業の行動 第4章 寡占市場の理論 第5章 参入・退出行動とその効果 第6章 イノベーションと産業組織 第7章 終章：公共政策(競争政策)の課題と内容			
[成績評価の方法] 授業中に課す数回の小テストないしは宿題(30%)と定期試験の結果(70%)を総合して評価する。	[参考文献] 1. 植草益他編(2002)『現代産業組織論』(NTT出版) 2. 長岡貞男・平尾由紀子(1998)『産業組織の経済学』(日本評論社) 3. 小田切宏之(2000)『企業経済学』(東洋経済新報社) 4. 後藤晃・鈴木興太郎(1999)『日本の競争政策』(東京大学出版会) 5. Cabral, L.M.B. (2000), <i>Introduction to Industrial Organization</i> , MIT Press. なお、他の参考文献については、授業中に適宜指示する。			
[教科書] 特に指定しないが、参考文献中の1及び2の文献が有益である。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
農業経済論		通 期	4単位	浦 出 俊 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>GATT体制からWTO体制へ移り、貿易の自由化が進んでいる。しかし、その中でも農産物に関しては、他の品目に比べ、自由化が遅れている。そこでは、農産物の持つ特質や各国の国内農業情勢が大きく係わっており、同時に、わが国の農業にも大きな影響を及ぼしている。</p> <p>本講義では、世界の農業問題を国際貿易の観点から取り上げ、先進国および途上国の農業政策を比較し、その上で、わが国の農業問題について考察する。</p> <p>農業経済論では、特にミクロ経済学の理論を援用するので、その知識が必要である。ゆえに、経済原論IA-1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。</p>		[講義計画]		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人口と食糧問題 2. 世界の農業問題 3. 農業の特質 4. 経済発展と農業 5. 農産物貿易と農業問題 6. 途上国の食料問題 7. 先進国の農業保護政策 8. GATTとWTO 9. 日本の農業政策と農業構造
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、学年度末試験の成績によって評価する。</p> <p>ただし、受講生数が適限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。</p>		[参考文献]		<p>速水佑次郎・神門善久(著)『農業経済論』(岩波書店)</p> <p>桂開津典生(著)『農業経済学』(岩波書店)</p> <p>土屋圭造(著)『農業経済学』(東洋経済新報社)</p> <p>堀田忠夫(編著)『国際競争下の農業・農村革新』(農林統計協会)</p>
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。</p> <p>http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
産業構造論		通 期	4単位	義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代日本産業の当面する諸問題について、各産業分野で活躍されている第一線のエコノミストに最新の資料(情報)にもとづく講義をしていただきます。</p>		[講義計画] 2003年度 講義内容		<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権 ・外食産業 ・繊維産業 ・自動車産業 ・貿易 ・エネルギー産業 ・東大阪地域における産業の現状と地域産業政策 ・情報産業 ・エレクトロニクス産業 ・金型産業
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1年を4期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらおう。それらを総合して評価する。</p>		[参考文献]		その都度指示する。
<p>[教科書]</p> <p>指定しない。</p>				